

エクスプレス通報サービス セットアップガイド(Linux/VMware編)




- 1章 セットアップの準備
- 2章 セットアップ方法
- 3章 電子メール経由の設定
- 4章 ダイヤルアップ経由の設定
- 5章 マネージャ経由の設定
- 6章 HTTPS経由の設定
- 7章 エクスプレス通報サービスの各種設定
- 8章 エクスプレス通報サービスの終了

目次

目次	2
本文中の記号	3
商標	4
本書についての注意、補足	5
最新版	5
エクスプレス通報サービスのセットアップ手順	6
1. セットアップの準備	7
1.1. エクスプレス通報サービスのセットアップ環境	7
1.2. セットアップに必要な契約	10
2. セットアップ方法	11
3. 電子メール経由の設定	16
4. ダイアルアップ経由の設定	25
5. マネージャ経由の設定	30
5.1. マネージャの設定	30
5.2. エージェントの設定	34
6. HTTPS経由の設定	39
6.1. 開局手順	39
6.2. HTTPS経由の定義ファイルの設定	44
6.2.1. 宛先定義ファイル (AMHTPADR. INF)	44
6.2.2. ログ収集定義ファイル (AMHTPLOG. INF)	45
6.2.3. 構成情報定義ファイル (AMHTPHBI. INF)	49
6.3. HTTPS経由の注意事項	51
7. エクスプレス通報サービスの各種設定	52
7.1. お客様情報の確認および修正	53
7.2. サーバ情報の確認および修正	55
7.3. オプション装置情報の確認および修正	56
7.4. 販売店情報の確認および修正	58
7.5. 開局ファイルの再読み込み	59
8. エクスプレス通報サービスの終了	60

本文中の記号

本書では 3 種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味があります。

	ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。
	ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。
	知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。

商 標

ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat、Red Hat Enterprise Linux は、米国 Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

本書についての注意、補足

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については、(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 本書の説明で用いられているサンプル値は、すべて架空のものです。

この説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくよう
してください。

最新版

本書は作成日時点の情報をもとに作られており、画面イメージ、メッセージ、または手順などが**実際のもの**と異なる**ときがあります**。変更されているときは適宜読み替えてください。

また、本書は、次の Web サイトから最新版をダウンロードすることができます。

エクスプレス通報サービス 開局マニュアル ～Linux 版～

http://acc.express.nec.co.jp/notice/man_linux/guide.asp

2-2.開局 F D の読み込みと通報設定

エクスプレス通報サービスのセットアップ手順

本書は、エクスプレス通報サービス(Linux 版)を導入するにあたり必要となるセットアップ手順について記述しています。

エクスプレス通報サービスをお使いになる前に、必ずお読みください。

このエクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メール、モデム経由または HTTPS プロトコル経由で保守センタに自動で通報できます。本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知し、障害発生時に迅速に保守できます。また、複数のサーバからの通報を 1 台のマネージャに転送することによりマネージャ経由によるエクスプレス通報をすることができます。

1. セットアップの準備

エクスプレス通報サービスをご使用になるためには、まず、監視対象となるサーバにエクスプレス通報サービスをセットアップしていただく必要があります。

1.1. エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

1)ハードウェア

- ・監視対象サーバ
メモリ：30MB 以上※
空きディスク容量：70MB 以上※
エクスプレス通報サービス単体では、インストールできません。
そのため、ESMPRO/ServerAgent のインストールが必要です。
- ・モデム
ダイヤルアップ経由の通報を使用するとき、モデムが必要です。
また、バージョン 4.2.0-1 以降の ESMPRO/ServerAgent が必要です。
- ・メールサーバ
電子メール経由の通報を使用するとき、SMTP をサポートしているメールサーバが必要です。

2)ソフトウェア

- ・Linux サービスセットがサポートしている Linux OS かつ
対象となる Linux OS をサポートしている ESMPRO/ServerAgent(Linux 版)が Ver.3.9 以降
バージョンによりサポートしている機能に差分がありますので、以下の表を参照してください。

バージョン	機能							
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8), (9)
3.8 以前	×	×	×	×	×	×	×	×
3.9-1 以降	○	×	×	×	×	×	×	×
3.9-5 以降	○	×	○	×	×	×	×	×
4.1.12 以降	○	×	○	○	×	×	×	×
4.2.0-1 以降	○	○	○	○	×	×	×	×
4.2.4-1 以降	○	○	○	○	○	×	×	×
4.2.32-2以降	○	○	○	○	○	○	×	×
4.4.22-1以降	○	○	○	○	○	○	○	×
4.4.30-1以降	○	○	○	○	○	○	○	○

[機能一覧]

○：サポート、×：未サポート

- (1) インターネットメール経由通報
- (2) ダイヤルアップ経由通報
- (3) マネージャ転送通報
- (4) POP before SMTP[□]
- (5) SMTP 認証機能[□]
- (6) 再開局機能
- (7) HTTPS 通報
- (8) SNTP 認証の形式追加
- (9) 通報の抑止機能

※エクスプレス通報サービスでサポートしている認証は以下です。
認証方式：POP before SMTP、SMTP 認証
POP：POP3 (APOP は未対応)
機能(5)- SMTP 認証の形式：CRAM-MD5
機能(8)- SMTP 認証の形式：CRAM-MD5, LOGIN, PLAIN

- ・ マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に下記(1)および(2)の環境が必要です。
 - (1) ESMPRO/ServerManager Windows 版

監視対象となるサーバにインストールされている ESMPRO/ServerAgent のバージョン以上を使用してください。(小数点以下 1 桁までのバージョン)

(例) 監視対象のサーバにインストールしている ESMPRO/ServerAgent のバージョンが 4.4 のとき、バージョン 4.4 以降の ESMPRO/ServerManager が必要です。
 - (2) ESMPRO/AlertManager

バージョン 3.9 以降の ESMPRO/AlertManager が必要です。
- ・ HTTPS 経由の通報を使用する場合は、HTTPS(TCP/443)でのインターネット通信ができる環境が必要です。
- ・ HTTPS 経由の通報を使用する場合は、zip パッケージと curl パッケージが必要です。
Red Hat Enterprise Linux 6 では zip パッケージと libcurl パッケージとなります。

■注意事項

・ コントロールパネルの日本語表示

ローカルコンソールでは、コントロールパネルを起動しても文字化けが発生します。日本語を正しく表示させるには以下の方法を実施してください。

- ・ GUI 環境(GNOME 等)を利用するとき

日本語表示が可能な GNOME 等の GUI 環境から、コントロールパネルを起動してください。

- ・ ネットワーク経由(ssh など)で別の日本語端末を利用するとき

ネットワーク経由(ssh など)で別の日本語端末からログインし、以下のコマンドにより一時的に LANG 環境変数を日本語環境に変更後、コントロールパネルを起動してください。

```
# export LANG=ja_JP.eucJP
または
# export LANG=ja_JP.UTF-8
```

システムの言語設定については、/etc/sysconfig/i18n 等
システムの設定を参照してください。

- ・ kon コマンドを使用するとき

kon コマンドが使用できるとき、以下の手順で、kon コマンドを使用して、コントロールパネルを起動してください。

```
# kon
# cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
# ./ESMamsadm
# exit
```

・ newt パッケージの不具合

Linux OS に含まれる newt パッケージの不具合により、LANG 環境変数が"ja_JP.UTF-8"のときに ESMPRO/ServerAgent のコントロールパネルで日本語を入力できないことがあります。日本語を入力するときは、ESMPRO/ServerAgent のコントロールパネルを起動するコンソールの LANG 環境変数を、export コマンドで一時的に"ja_JP.eucJP"へ変更し入力してください。

入力終了後、"ja_JP.UTF-8"に戻してください。

なお、エディットボックスの表示幅を超えて日本語入力できません。

```
# export LANG=ja_JP.eucJP
# cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
# ./ESMamsadm
# export LANG=ja_JP.UTF-8
```

・ システムの言語設定(LANG 環境変数)

エクスプレス通報サービスをご使用頂くには、ESMPRO/ServerAgent 関連サービスが日本語設定(LANG=ja_JP.xxxx)で動作する必要があります。システムの言語設定を変更できない、または変更しても

ESMPRO/ServerAgent 関連サービスが起動する時点では日本語設定とならない OS には ESMPRO/ServerAgent 日本語設定ツール (esmset.sh)、または、ESMPRO/ServerAgent 設定ツール (vmset.sh) を提供しておりますので、各 OS の ESMPRO/ServerAgent インストール手順に従い、実行してください。

[実行例]

```
Red Hat Enterprise Linux 5 以降 : # sh esmset.sh
SUSE LINUX Enterprise Server : # sh esmset.sh
VMware ESX 3, vSphere 4       : # sh vmset.sh -sata
Asianux Server 3              : # sh vmset.sh
```

また、エクスプレス通報サービスを開局するときは、日本語端末からログインし、以下のコマンドにより一時的に LANG 環境変数を日本語環境に変更してから開局してください。

```
# export LANG=ja_JP.eucJP
または
# export LANG=ja_JP.UTF-8
```

システムの言語設定については、/etc/sysconfig/i18n 等
システムの設定を参照してください。

・ vSphere 4 における FDD の使用

vSphere 4 では、内蔵および外付けのフロッピーディスクドライブが未対応となっているため、フロッピーディスクドライブを使用して開局できません。

1.2. セットアップに必要な契約

セットアップするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

1) 必要な契約

本体装置のハードウェアメンテナンスサービスの契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでない場合、エクスプレス通報サービスはご利用できません。

契約内容の詳細については、購入された販売店にお問い合わせください。

2) 開局にあたって

エクスプレス通報サービスを開局する際には、ご契約毎のご契約情報を記録した「開局キーファイル」を通報対象の装置に適用する必要があります。

「開局キーファイル」は、弊社での開局準備ができ次第、エクスプレス受付センタから提供いたします。

ファイルの提供とその適用方法には、以下の2通りの方法があります。

・ ネットワーク経由でダウンロード

エクスプレス通報サービスを NEC サポートパック登録ホームページ、もしくはお客様登録のサイトからお申し込みの場合、お申し込みの手続きを実施いただき、弊社での開局準備完了後、「開局キーファイル」をダウンロードできます。

・ 通報サービスの通報開局 FD(または開局 CD)

エクスプレス通報サービスを製品同梱の申込用紙もしくは契約書で申し込みの場合、お申し込み内容を確認し、弊社での開局準備完了後、エクスプレス受付センタより、「開局キーファイル」を格納した「通報開局 FD(または開局 CD)」を送付いたします。お申し込み手続き後しばらくお待ちください。

2. セットアップ方法

エクスプレス通報サービスを有効にするためには、以下の手順に従って、開局ファイルを読み込んでください。

- 1) root 権限のあるユーザでログインして、読み込ませる開局ファイルを格納するディレクトリを準備します。準備する方法として、任意のディレクトリに全ての開局ファイルを格納する、通報開局 FD(または、開局 CD)をマウントする方法があります。

●任意のディレクトリに全ての開局ファイルを格納するとき

ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2.36-2 以降のバージョンでは、開局ファイルを任意のディレクトリに格納し、開局時にディレクトリを指定することで開局することができます。

フロッピーディスクドライブ、CD ドライブがない装置の場合は、開局ファイルを FTP や SCP 等を使用しネットワーク経由でコピーする必要がありますので、ネットワークに接続できるように準備しておいてください。また、FTP や SCP 等でアクセス可能な場所に、全ての開局ファイルを格納しておいてください。

ネットワークに接続できない場合は、「フロッピーディスクドライブがない装置のとき」に記載の手順を参照してください。

以下のコマンドを実行して格納先ディレクトリを作成します。

(ここでは、格納先ディレクトリを /tmp/work としています。)

```
# mkdir -p /tmp/work
```

作成したディレクトリに、全ての開局ファイルをコピーしてください。

ここでは、FTP を使用してコピーするときの例を記載します。

作成したディレクトリに移動して、FTP サーバに接続してください。

```
# cd /tmp/work  
# ftp (FTP サーバのアドレス)
```

FTP サーバのアカウントとパスワードを入力して、FTP サーバにログインします。プロンプトが"ftp>"に変わりますので、以下のコマンドを実行して、開局ファイルを格納しているディレクトリに移動してください。

```
ftp> cd (開局ファイルを格納しているディレクトリ)
```

FTP でコピーするときは、バイナリモードでコピーする必要があります。バイナリモードに変更してから全ての開局ファイルをコピー(mget)してください。

```
ftp> bin  
ftp> mget AMEX*
```

開局ファイルのコピーが完了した後は、FTP サーバからログアウトしてください。ログアウト後は、プロンプトが"#"に戻ります。

```
ftp> quit  
#
```

●開局 CD のとき

通報開局 CD を光ディスクドライブに挿入し、以下のコマンドを実行して、通報開局 CD をマウントします。

```
# mount /media/cdrom (または mount /mnt/cdrom)
```

ESMPRO/ServerAgent Ver.3.9-5 から Ver.4.2.32-1 までのバージョンでは、開局ファイルの格納先が /mnt/floppy 固定のため、CD マウントしたディレクトリに対して、/mnt/floppy をマウントしてください。

(1) マウントするディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p /mnt/floppy
```

(2) 通報開局 CD をマウントポイントに対して、(1)のディレクトリを再マウントします。

```
# mount --bind /mnt/cdrom /mnt/floppy
```

※通報開局 CD をアンマウントする前に、先に(2)をアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/floppy
```



オートマウントが有効なとき、ディストリビューションによってはボリューム名がマウントポイントとして使われることがあります。エクスプレス通報の設定より、「開局ファイルの選択」選択先で開局 CD がマウントされているディレクトリを指定してください。

「開局ファイルの選択」機能は ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2.32-2 以降のバージョンからサポートしています。

例：CD のボリューム名：091029_0958

マウントポイント：/media/091029_0958

●開局 FD のとき

○フロッピーディスクドライブがある装置のとき

通報開局 FD をフロッピーディスクドライブに挿入し、以下のコマンドを実行して、通報開局 FD をマウントします。

```
# mount /media/floppy (または mount /mnt/floppy)
```



Red Hat Enterprise Linux 5.2 以降のとき、フロッピーディスクは/media/floppy (または mount /mnt/floppy)以外のマウントポイント(例：/media/disk)へマウントされることがあります。エクスプレス通報の設定より、「開局ファイルの選択」選択先でフロッピーディスクのマウントディレクトリ(例：/media/disk)を指定してください。

「開局ファイルの選択」機能は ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2.32-2 以降のバージョンからサポートしています。

○USB 接続フロッピーディスクドライブの装置のとき

USB 接続のフロッピーディスクドライブを装置へ接続し、通報開局 FD をフロッピーディスクドライブに挿入して、以下のコマンドを実行して、通報開局 FD をマウントします。

```
# mount /media/floppy (または mount /mnt/floppy)
```

上記コマンドでマウントできないときは、以下の手順でデバイス名を指定して、マウントしてください。

(1) 以下のコマンドを実行して、/mnt/floppy ディレクトリを作ります。

すでに、/mnt/floppy ディレクトリが存在するときは作成不要です。

```
# mkdir -p /mnt/floppy
```

(2) 以下のコマンドを実行して、通報開局 FD をマウントします。

```
# mount デバイス名 /mnt/floppy
```

デバイス名は dmesg、または syslog から確認してください。

・ dmesg コマンドでの確認方法

```
# dmesg
```

・ syslog での確認方法

```
# cat /var/log/messages
```

USB 接続のフロッピーディスクドライブ接続後、以下のようなメッセージが出力されている場合、デ

デバイス名は/dev/sdb となります。デバイス名が/dev/sdb の場合は、以下のコマンドでマウントします。

```
# mount /dev/sdb /mnt/floppy
```

dmesg コマンドの表示例(抜粋)

```
usb-storage: waiting for device to settle before scanning
  Vendor: Y-E DATA  Model: USB-FDU          Rev: 6.01
  Type:   Direct-Access          ANSI SCSI revision: 00
SCSI device sdb: 2880 512-byte hdwr sectors (1 MB)
sdb: Write Protect is off
sdb: Mode Sense: 00 46 94 00
sdb: assuming drive cache: write through
SCSI device sdb: 2880 512-byte hdwr sectors (1 MB)
sdb: Write Protect is off
sdb: Mode Sense: 00 46 94 00
sdb: assuming drive cache: write through
sdb: unknown partition table
sd 2:0:0:0: Attached scsi removable disk sdb
```

syslog での表示例(抜粋)

```
Jan  2 04:33:50 localhost kernel: Vendor: Y-E DATA  Model: USB-FDU  Rev: 6.01
Jan  2 04:33:50 localhost kernel: Type: Direct-Access  ANSI SCSI revision: 00
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: SCSI device sdb: 2880 512-byte hdwr sectors (1 MB)
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: sdb: Write Protect is off
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: sdb: assuming drive cache: write through
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: SCSI device sdb: 2880 512-byte hdwr sectors (1 MB)
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: sdb: Write Protect is off
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: sdb: assuming drive cache: write through
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: sdb: unknown partition table
Jan  2 04:33:52 localhost kernel: sd 2:0:0:0: Attached scsi removable disk sdb
```



Red Hat Enterprise Linux 5.2 以降のとき、フロッピーディスクは/media/floppy (または mount /mnt/floppy)以外のマウントポイント(例 : /media/disk)へマウントされることがあります。エクスプレス通報の設定より、「開局ファイルの選択」選択先でフロッピーディスクのマウントディレクトリ(例 : /media/disk)を指定してください。

「開局ファイルの選択」機能は ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2.32-2 以降のバージョンからサポートしています。

○フロッピーディスクドライブがない装置のとき

(1) 通報開局 FD から FD イメージを作ります。

※本手順はフロッピーディスクドライブがある装置にインストールされている Linux 上で実施してください。

(1)-1 通報開局 FD をフロッピーディスクドライブに挿入し、以下のコマンドを実行し、通報開局 FD をマウントします。

```
# mount /media/floppy (または mount /mnt/floppy)
```

(1)-2 以下のコマンドを実行して、通報開局 FD から FD イメージを作ります。

```
# dd if=/dev/fd0 of=<FD イメージ名>
```



dd for windows(GPL)に含まれる dd.exe を使用して、Windows OS 上においても FD イメージを作れます。通報開局 FD をフロッピーディスクドライブに挿入し、以下のコマンドを実行して、通報開局 FD から FD イメージを作ります。

```
> dd.exe if=¥¥.¥A: of=<FD イメージ名> bs=1440k
```

※上記はフロッピーディスクドライブを A:として、記載していますので、ご使用の環境に合わせて、"if=¥¥.¥a:"を変更してください。

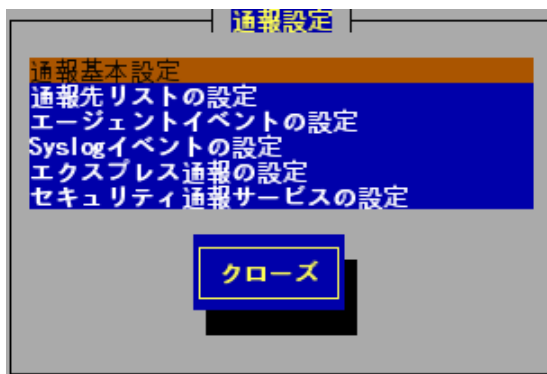


本ツールの使用により発生した問題については、責任を負いかねますのでご了承ください。

- (2) (1)で作成した FD イメージを開局対象の装置の任意のディレクトリにコピーします。
(ここでは、コピー先を /tmp として説明します。)
- (3) 以下のコマンドを実行して、/mnt/floppy ディレクトリを作ります。
すでに、/mnt/floppy ディレクトリが存在するときは作成不要です。
mkdir -p /mnt/floppy
- (4) /tmp に移動し、(2)でコピーした FD イメージを以下のコマンドを実行して、マウントします。
mount -o loop -t vfat <FD イメージ名> /mnt/floppy

- 2) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。
cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
./ESMamsadm

- 3) [通報設定]画面が表示されます。
[通報設定]画面から[エクスプレス通報の設定]を選びます。



ESMPRO/ServerAgent Ver.4.1.6-4 以前のバージョン、または ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.22-1 以降のバージョンでは、「セキュリティ通報サービスの設定」の項目は表示されません。

- 4) メッセージに従って、手順 1) で準備したディレクトリを指定します。



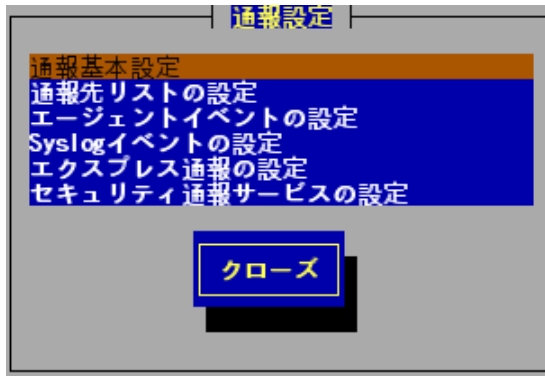
- 5) [エクスプレス通報サービスの設定]画面が表示されます。
- 6) 開局ファイルの内容を確認します。
- 7) 手順 1) で、通報開局 FD(または、開局 CD)をマウントしているときは、以下のコマンドを実行して、通報開局 FD(または、開局 CD)のマウントを解除した後にドライブから取り出します。
FD のとき、# umount /media/floppy (または umount /mnt/floppy)
CD のとき、# umount /media/cdrom (または umount /mnt/cdrom)

[エクスプレス通報サービスの設定]画面で、通報開局 FD(または、開局 CD)の内容を確認後にエクスプレス通報サービスは有効になります。

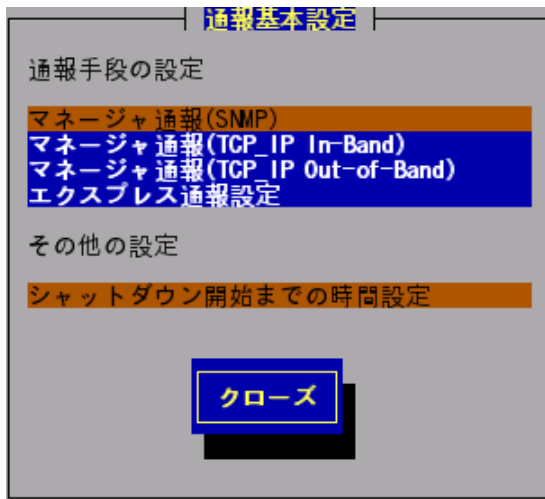
3. 電子メール経由の設定

電子メールを利用した、エクスプレス通報サービスを開始するための設定手順について説明します。
ESMPRO/ServerAgent Ver.3.9-1 以降のバージョンから、本機能をサポートしています。

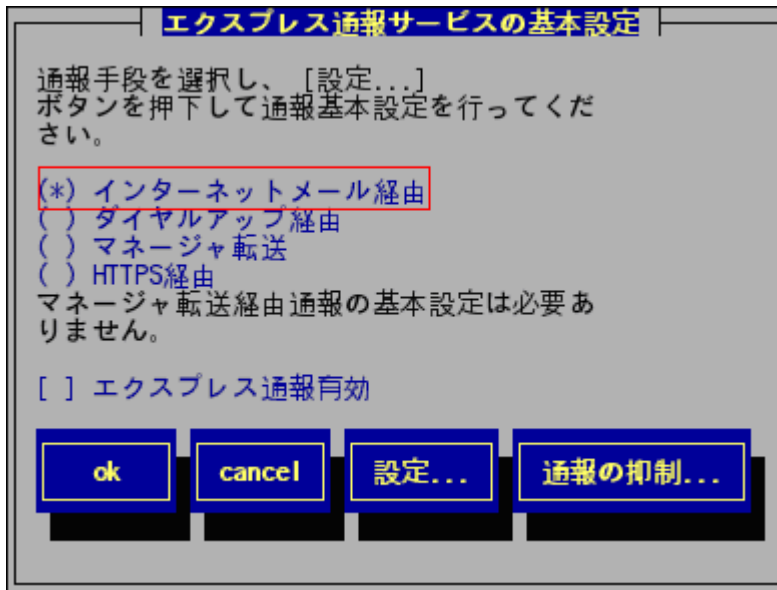
- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。
cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
./ESMamsadm
- 2) [通報設定]画面が表示されます。
[通報設定]画面から[通報基本設定]を選びます。



- 3) [通報基本設定]画面が表示されます。
[通報基本設定]画面から[エクスプレス通報設定]を選びます。



- 4) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面が表示されます。
[インターネットメール経由]を選び、[設定...]ボタンを押します。



ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2 より前のバージョンでは、「ダイヤルアップ経由」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.3.9-5 より前のバージョンでは、「マネージャ転送」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.22-1 より前のバージョンでは、「HTTPS 経由」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.30-1 より前のバージョンでは、「通報の抑制...」ボタンは表示されません。

エクスプレス通報有効

エクスプレス通報を有効にするか無効にするかを指定します。(スペースキーで設定)
チェックがある場合は有効になり、チェックが無い場合は無効になります。

- 5) [エクスプレス通報(インターネットメール経由)の基本設定]画面が表示されます。
メールサーバと送信者メールアドレスの設定してください。

●ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2 以降のバージョンのとき



メールサーバ(SMTP)

インターネットメールサーバ(IP アドレスまたはホスト名)を指定します。
SMTP が動作しているメールサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
たとえば、smtp.foo.co.jp または 192.168.0.100 のように入力します。
ホスト名を指定したときは、名前解決するために/etc/hosts への定義してください。

例) 192.168.0.100 smtp.foo.co.jp

電子メールアドレス

自分(送信者)のメールボックスの電子メールアドレスを 79 文字以内で指定してください。
たとえば、sousin@foo.co.jp のように入力します。

SMTP ポート番号

インターネットメールサーバへ接続するポート番号を設定できます。既定値に問題がない限り、設定を変えないでください。

[既定値]ボタンを押すと、既定値(25)に戻せます。

設定オプション

Date: フィールドを送信する

通報時メールのヘッダ部に、AlertManager 側で Date: フィールドを付加して送信したい場合、本項目をチェックしてください。(スペースキーで設定)

(通常、通報時メールのヘッダ部の Date: フィールドは、メールサーバ側で付加されます。)

このサーバは POP Before SMTP が必要

ご利用の SMTP サーバが「POP Before SMTP」認証を必要としている場合は、本項目をチェックし(スペースキーで設定)、[認証設定]ボタンを押して、認証設定してください。

このサーバは SMTP 認証が必要

ご利用の SMTP サーバが SMTP 認証を必要としている場合は、本項目をチェックし(スペースキーで設定)、[認証設定]ボタンを押して、認証設定してください。

<認証設定>ボタン

SMTP サーバで認証を必要としている場合は、このボタンを押して、POP Before SMTP か SMTP 認証の設定してください。

[エクスプレス通報サービス(インターネットメール経由)の認証設定]画面が表示されます。

エクスプレス通報サービス(インターネットメール経由)の認証設定

POP Before SMTP

メールサーバ(POP): []

アカウント名: []

パスワード: []

POPポート番号: 110 <既定値>

待ち時間: 0 秒 <既定値>

SMTP認証

アカウント名: []

パスワード: []

ok cancel

POP Before SMTP

メールサーバ(POP)

POP before SMTP で利用する POP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。たとえば、pop.foo.co.jp または 192.168.0.100 のように入力します。

ホスト名を指定したときは、名前解決するために/etc/hosts への定義してください。

例) 192.168.0.100 pop.foo.co.jp

アカウント名

POP サーバへ接続するアカウント名を指定します。

パスワード

POP サーバへ接続するパスワードを指定します。

POP ポート番号

POP サーバへ接続するポート番号を 1~65535 の範囲で指定します。

既定値(110)に問題がない場合は、変えないでください。

[既定値]ボタンを押すと、既定値(110)に戻せます。

待ち時間

SMTP サーバによっては POP 認証後、SMTP サーバへ接続する際に待ち時間が必要となる場合があります。ご利用の環境に合った時間を 0~60(秒)の範囲で指定してください。

特に問題がない場合は、既定値(0 秒)から変えないでください。

[既定値]ボタンを押すと、既定値(0 秒)に戻せます。

SMTP 認証

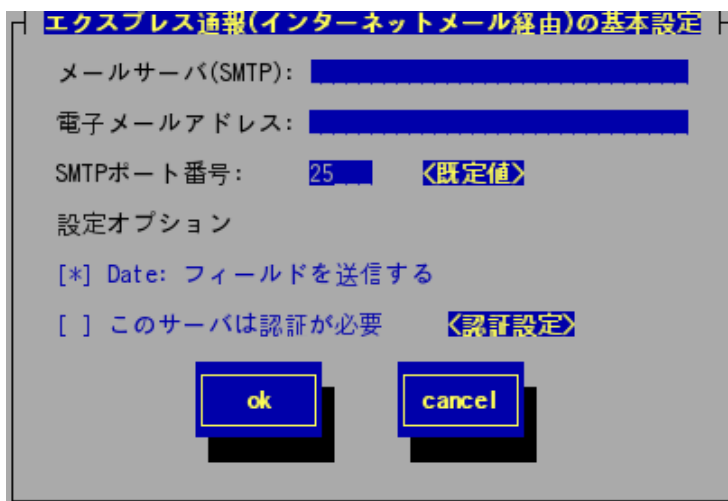
アカウント名

SMTP 認証の際に使用するアカウント名を指定します。

パスワード

SMTP 認証の際に使用するパスワードを指定します。

●ESMPRO/ServerAgent Ver.4.1.12-1 以降 ~ Ver.4.2 より前のバージョンのとき



メールサーバ(SMTP)

インターネットメールサーバ(IP アドレスまたはホスト名)を指定します。

SMTP が動作しているメールサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

たとえば、smtp.foo.co.jp または 192.168.0.100 のように入力します。

ホスト名を指定したときは、名前解決するために/etc/hosts への定義してください。

例) 192.168.0.100 smtp.foo.co.jp

電子メールアドレス

自分(送信者)のメールボックスの電子メールアドレスを 79 文字以内で指定してください。

たとえば、sousin@foo.co.jp のように入力します。

SMTP ポート番号

インターネットメールサーバへ接続するポート番号を設定できます。

既定値に問題がない限り、設定を変えないでください。

<既定値>ボタンを押すと、既定値(25)に戻せます。

設定オプション

Date:フィールドを送信する

通報時メールのヘッダ部に、AlertManager 側で Date:フィールドを付加して送信したい場合、本項目をチェックしてください。(スペースキーで設定)

(通常、通報時メールのヘッダ部の Date:フィールドは、メールサーバ側で付加されます。)

このサーバは認証が必要

ご利用の SMTP サーバが認証を必要としている場合は、本項目をチェックし(スペースキーで設定)、[認証設定]ボタンを押して、認証設定してください。

<認証設定>ボタン

SMTP サーバにて認証が必要な場合は、このボタンを押してください。

[エクスプレス通報サービス(インターネットメール経由)の認証設定]画面が表示されます。

エクスプレス通報サービス(インターネットメール経由)の認証設定

メールサーバ(POP):
アカウント名:
パスワード:

POPポート番号: 110 既定値
待ち時間: 0 秒 既定値

ok cancel

メールサーバ(POP)

POP before SMTP で利用する POP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。たとえば、pop.foo.co.jp または 192.168.0.100 のように入力します。

ホスト名を指定したときは、名前解決するために/etc/hosts への定義してください。

例) 192.168.0.100 pop.foo.co.jp

アカウント名

POP サーバへ接続するアカウント名を指定します。

パスワード

POP サーバへ接続するパスワードを指定します。

POP ポート番号

POP サーバへ接続するポート番号を 1~65535 の範囲で指定します。

既定値(110)に問題がない場合は、変えないでください。

[既定値]ボタンを押すと、既定値(110)に戻せます。

待ち時間

SMTP サーバによっては POP 認証後、SMTP サーバへ接続する際に待ち時間が必要となる場合があります。ご利用の環境にあった時間を 0~60(秒)の範囲で指定してください。

特に問題がない場合は、既定値(0 秒)から変えないでください。

[既定値]ボタンを押すと、既定値(0 秒)に戻せます。

●ESMPRO/ServerAgent Ver.4.1.12-1 より前のバージョンのとき



メールサーバ(SMTP)

インターネットメールサーバ(IP アドレスまたはホスト名)を指定します。
SMTP が動作しているメールサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
たとえば、smtp.foo.co.jp または 192.168.0.100 のように入力します。
ホスト名を指定したときは、名前解決するために/etc/hosts への定義してください。
例) 192.168.0.100 smtp.foo.co.jp

電子メールアドレス

自分(送信者)のメールボックスの電子メールアドレスを 30 文字以内で指定してください。
たとえば、sousin@foo.co.jp のように入力します。

SMTP ポート番号

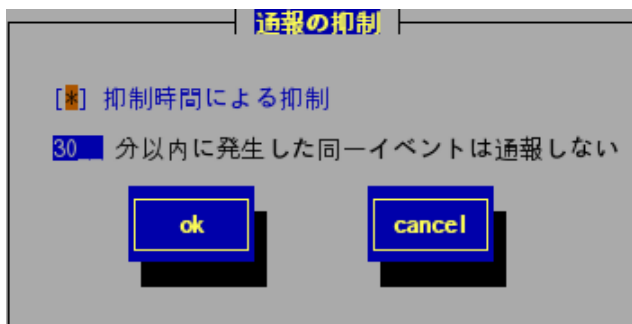
インターネットメールサーバへ接続するポート番号を設定できます。
既定値に問題がない限り、設定を変えないでください。
[Default]ボタンを押すと、既定値(25)に戻せます。

設定オプション

Date: フィールドを送信する

通報時メールのヘッダ部に、AlertManager 側で Date:フィールドを付加して送信したい場合、
本項目をチェックしてください。(スペースキーで設定)
(通常、通報時メールのヘッダ部の Date:フィールドは、メールサーバ側で付加されます。)

- 6) [ok]ボタンを押して[エクスプレス通報サービスの基本設定]画面に戻ります。
- 7) 通報の抑制を設定するときは、[通報の抑制...]ボタンを押してください。
通報の抑止を設定しないときは、手順 9)へ進んでください。



抑制時間による抑制

指定された時間内に発生した同一イベントを通報したくない場合、本項目をチェックしてください。
(スペースキーで設定)

規定値は本項目にチェックが入っています。

抑制時間

通報を抑制する時間を 0～1440(分)の範囲で指定します。

規定値は 60(分)となっています。

また、0(分)の場合は通報の抑制を実施しません。

- 8) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面で[ok]ボタンを押して、[通報基本設定]画面に戻ります。
- 9) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面で[ok]ボタンを押して、[通報基本設定]画面に戻ります。
- 10) [通報基本設定]画面で[クローズ]ボタンを押して[通報設定]画面に戻ります。
- 11) [通報設定]画面から[通報先リストの設定]を選びます。
- 12) [通報先リストの設定]画面が表示されます。[EXPRESSREPORT]を選び、[修正...]ボタンを押します。



- 13) [ID 設定]画面が表示されます。[宛先設定...]ボタンを押します。



- 14) [エクスプレス通報(インターネットメール経由)の設定]画面が表示されます。

エクスプレス通報(インターネットメール経由)の設定

宛先: express@necs.nec.co.jp

件名: Express Alert Notification

設定情報:
[お客様属性]
個人
[お客様名称(カナ)]
ニチデンタロウ
[お客様名称(漢字)]

ok

cancel

テスト通報

開局通報

障害テスト

宛先

通報開局 FD(または、開局 CD)に設定されている通報先メールアドレスが表示されます。
設定変更はできません。

件名

メールの題名が表示されます。設定変更はできません。

設定情報

エクスプレス通報サービスの設定情報が表示されます。設定情報を変更したい場合は、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動し、「エクスプレス通報の設定」を選んで表示される[エクスプレス通報サービスの設定]画面にて設定を変更してください。設定情報の詳細につきましては、「6 エクスプレス通報サービスの各種設定」を参照してください。

[テスト通報]ボタン

テスト通報を行う場合、このボタンを押します。テスト結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[開局通報]ボタン

エクスプレス通報の開局通報を行う場合、このボタンを押します。通報結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[障害テスト]ボタン

障害テスト通報を行う場合、このボタンを押します。

- 15) [テスト通報]ボタンを押してテスト通報を確認します。
- 16) テスト通報の結果送付先を設定して、[ok]ボタンを押します。
- 17) 確認メッセージが表示されますので、[ok]ボタンを押すとテスト通報します。
テスト通報完了後は、指定した結果送付先へのメールの到着をお待ちください。
テスト通報結果を確認した後で、開局通報を行ってください。
- 18) [開局通報]ボタンを押して開局通報を確認します。
([開局通報]ボタンは、テスト通報完了後に押せるようになります。)
開局通報が完了した時点でエクスプレス通報サービスが開始されます。
- 19) [ok]ボタンを押して[エクスプレス通報(インターネットメール経由)の設定]画面を閉じます。

20) [ID 設定]画面から[スケジュール...]ボタンを押して、通報リトライの設定、通報時間帯の設定を行います。
初期値は、5 分間隔で 72 時間後までのリトライ、24 時間通報可能になっています。
この値は推奨値です。特に問題がなければ変えないでください。
設定を終えたら[ok]ボタンを押して[スケジュール]画面を閉じます。

21) [クローズ]ボタンを押して[ID 設定]画面を閉じます。

22) [クローズ]ボタンを押して[通報先リストの設定]画面を閉じます。

23) [クローズ]ボタンを押して[通報設定]画面を閉じます。

以上で、電子メール経由エクスプレス通報ができるようになります。

4. ダイアルアップ経由の設定

モデムを使用したダイアルアップを利用した、エクスプレス通報サービスを開始するための設定手順について説明します。ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2.0-1以降のバージョンから、本機能をサポートしています。

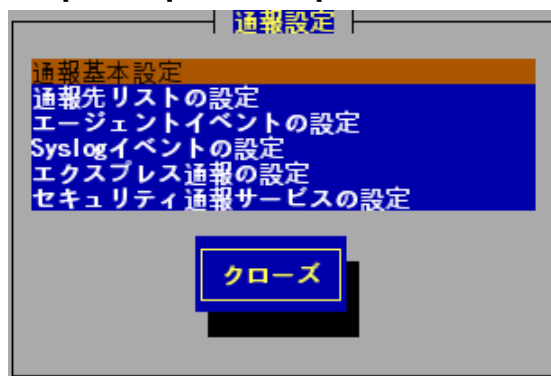
- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。

```
# cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
```

```
# ./ESMamsadm
```

- 2) [通報設定]画面が表示されます。

[通報設定]画面から[通報基本設定]を選びます。

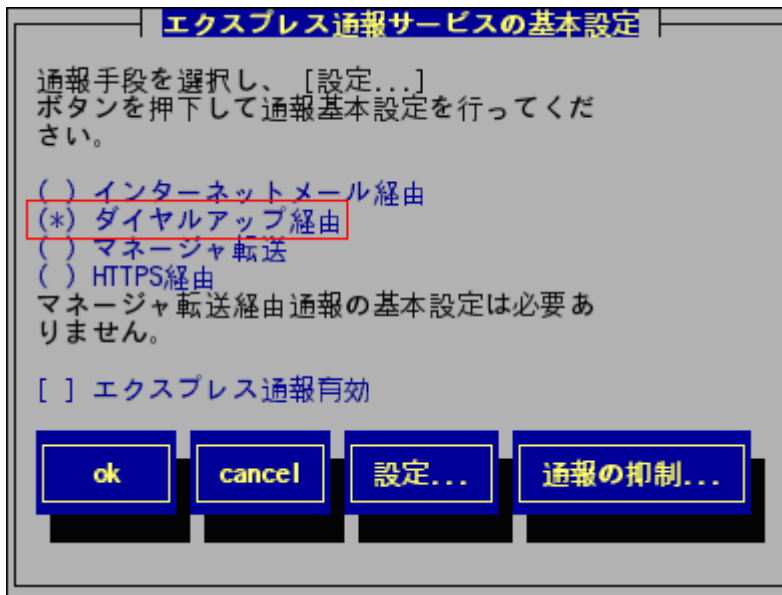


- 3) [通報基本設定]画面が表示されます。

[通報基本設定]画面から[エクスプレス通報設定]を選びます。



- 4) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面が表示されます。
[ダイヤルアップ経由]を選び、[設定...]ボタンを押します。



ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.22-1 より前のバージョンでは、「HTTPS 経由」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.30-1 より前のバージョンでは、[通報の抑制...]ボタンは表示されません。

エクスプレス通報有効

エクスプレス通報を有効にするか無効にするかを指定します。(スペースキーで設定)
チェックがある場合は有効になり、チェックが無い場合は無効になります。

- 5) [エクスプレス通報(ダイヤルアップ経由)の設定]画面が表示されます。



宛先

通報先設定で設定した宛先情報が表示されます。

コメント

通報先設定で設定したコメント情報が表示されます。

[情報設定]ボタン

[通報情報の設定]画面が表示されます。通報情報(ユーザ ID など)を設定してください。

[通報先設定]ボタン

[通報先の設定(シリアルポート経由)]画面が表示されます。ダイヤルアップ通報の宛先を設定してください。

[テスト(1次)]、[テスト(2次)]ボタン

テスト通報を行う場合、このボタンを押します。テスト結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[開局通報]ボタン

エクスプレス通報の開局通報を行う場合、このボタンを押します。通報結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[障害テスト]ボタン

障害テスト通報を行う場合、このボタンを押します。

- 6) [情報設定]ボタンを押します。ユーザ ID(ユーザシステムコード)を確認し、必要であれば通報コメントを入力してください。[ok]ボタンを押すと[エクスプレス通報(ダイヤルアップ経由)の設定]画面に戻ります。

通報情報の設定

ユーザ ID: 999999

通報コメント

(1) 999999

(2)

(3)

(4)

ok cancel

通報コメント

お客様の電話番号または保守担当者など、通報メッセージの一部となるコメントを 40 文字以内で最高 3 つまで設定できます。

- 7) [通報先設定]ボタンを押し、ダイヤルアップ通報の宛先を設定します。
- 8) [通報先の設定(シリアルポート経由)]画面が表示されます。モデムが接続されているシリアルポートおよびモデムの設定を行います。電話番号(一次)は通報開局 FD(または、開局 CD)に設定されている電話番号を表示していますので、問題がないときは変えないでください。

通報先の設定(シリアルポート経由)

電話番号 コメント

一次(1): 042-340-7090

二次(2):

シリアルポート: /dev/ttyS0

リダイヤル間隔: 60 秒

ダイヤルモード: () パルス(P)(*) トーン(T)

ok cancel

電話番号

通報先である保守センタの電話番号を 256 文字以内で入力してください。

一次通報先の電話番号は必ず指定してください。

二次通報先の電話番号は一次通報先への通報ができなかった場合に通報する保守センタの電話番号

です。(省略可能)

コメント

通報先に関するコメント(営業所名など)を入力できます。(省略可能)

40文字以内で入力してください。これは単なるコメントであり、通報情報には含まれません。

シリアルポート

ダイヤルアップ通報で使用するモデムが接続されているシリアルポートを選んでください。(“↑” or “↓”キーで選択)

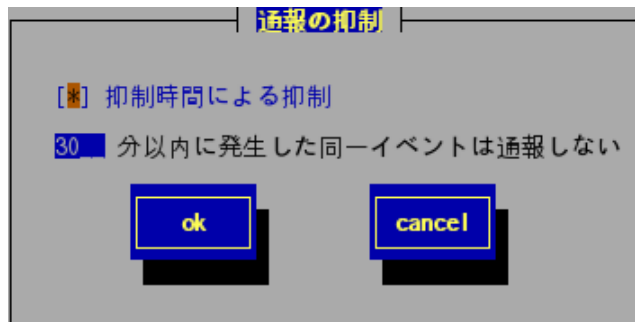
リダイヤル間隔

通報時、相手先ビジーなどにより回線接続できない場合に行うリダイヤルの間隔を 60~999(秒)の範囲で入力してください。既定値は 60(秒)です。

ダイヤルモード

パルスダイヤルかトーンダイヤルかを選んでください。(スペースキーで設定)

- 9) [ok]ボタンを押して[エクスプレス通報(ダイヤルアップ経由)の設定]画面に戻ります。
- 10) [テスト(1次)]ボタンを押して、テスト通報を確認します。
- 11) 確認メッセージが表示されますので、[ok]ボタンを押すとテスト通報します。
- 12) [開局通報]ボタンを押して開局通報を確認します。
([開局通報]ボタンは、テスト通報完了後に押せるようになります。)
開局通報が完了した時点でエクスプレス通報サービスが開始されます。
- 13) [クローズ]ボタンを押して[エクスプレス通報サービスの基本設定]画面に戻ります。
- 14) 通報の抑制を設定するときは、[通報の抑制...]ボタンを押してください。
通報の抑制を設定しないときは、手順 16)へ進んでください。



抑制時間による抑制

指定された時間内に発生した同一イベントを通報したくない場合、本項目をチェックしてください。

(スペースキーで設定)

規定値は本項目にチェックが入っています。

抑制時間

通報を抑制する時間を 0~1440(分)の範囲で指定します。

規定値は 60(分)となっています。

また、0(分)の場合は通報の抑制を実施しません。

- 15) [通報の抑制]画面で[ok]ボタンを押して、[エクスプレス通報サービスの基本設定]画面に戻ります。

16) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面で[ok]ボタンを押して、[通報基本設定]画面に戻ります。

17) [クローズ]ボタンを押して[通報基本設定]画面を閉じます。

18) [クローズ]ボタンを押して[通報設定]画面を閉じます。

以上で、ダイヤルアップ経由エクスプレス通報ができるようになります。

5. マネージャ経由の設定

マネージャを経由して、マネージャから電子メール、またはモデムを使用したダイヤルアップを利用した、エクスプレス通報サービスを開始するための設定手順について説明します。

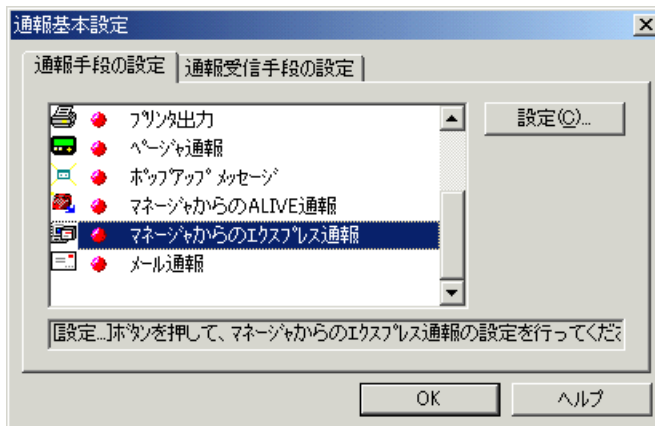
ESMPRO/ServerAgent Ver.3.9-5 以降のバージョンから、本機能をサポートしています。

マネージャ経由のエクスプレス通報を行うときは、まずマネージャを設定し、マネージャから電子メールによるテスト通報(到達確認通報)が正常に行われることを確認した後に、エージェントの設定をしてください。

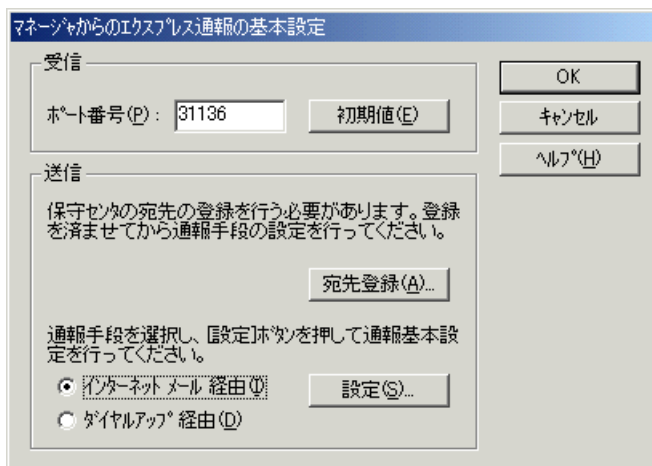
5.1. マネージャの設定

マネージャから電子メールを利用してエクスプレス通報サービスを開始するための設定手順について説明します。

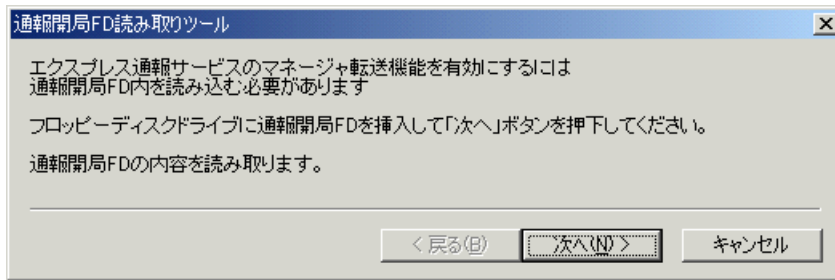
- 1) アラートビューアの[ツール]メニューから[通報の設定]を選びます。アラートマネージャが起動します。
- 2) アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選びます。
- 3) [通報手段の設定]プロパティの通報手段リストから[マネージャからのエクスプレス通報]を選んで、[設定...]をクリックします。[マネージャからのエクスプレス通報の基本設定]ダイアログボックスが表示されます。



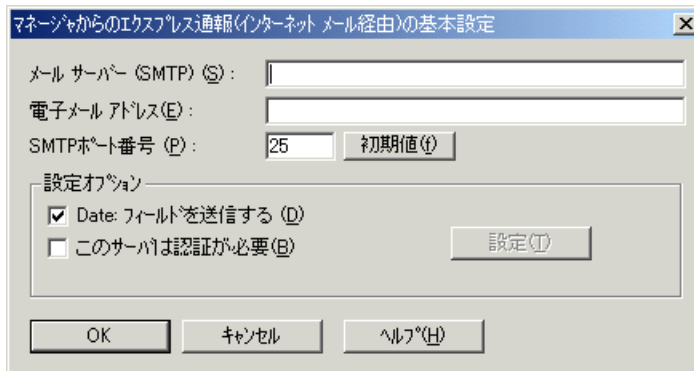
- 4) エージェントとソケット間通信に使用するポート番号を指定します。初期値は 31136 です。通常、初期値に問題がない限り設定を変えないでください。変える場合はエージェントでも同一のポート番号を指定してください。



- 5) 保守センタへの宛先を登録します。
[宛先登録...]をクリックすると、[通報開局 FD 読み取りツール]が起動します。

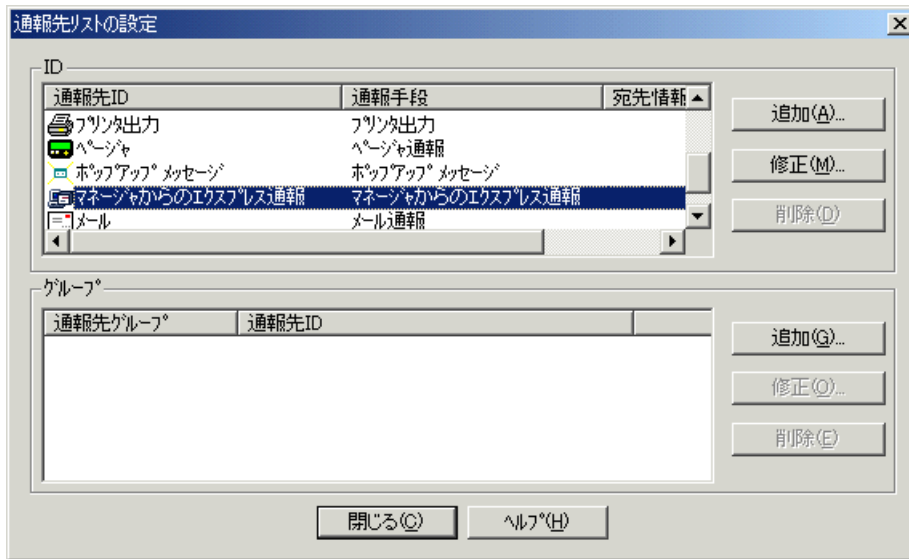


- 6) 通報開局 FD(または開局 CD)を適切なドライブにセットし、[次へ]をクリックします。
通報開局 FD(または開局 CD)の読み取りが開始されます。
※[通報開局 FD 読み取りツール]は、必ず最初にフロッピーディスクドライブを
検索します。開局 CD をご使用の場合は、一旦[次へ]をクリックし、表示される画面に
したがって開局してください。
- 7) 読み取り終了後、[完了]をクリックして[通報開局 FD 読み取りツール]を終了します。
- 8) [マネージャからのエクスプレス通報]ダイアログボックスで、通報手段として[インターネットメール経由]を
選んで、[設定]をクリックします。[マネージャからのエクスプレス通報(インターネットメール経由)の基本
設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 9) SMTP が動作しているメールサーバのホスト名を入力します。
たとえば、smtp.foo.co.jp のように入力します。

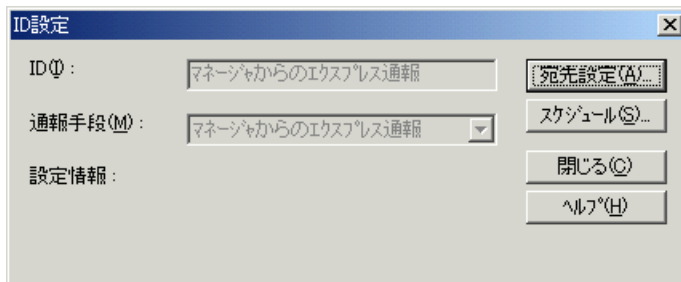


- 10) 自分(送信者)のメールボックスの電子メールアドレスを指定してください。
たとえば、sousin@foo.co.jp のように入力します。
- 11) [マネージャからのエクスプレス通報(インターネットメール経由)の基本設定]ダイアログボックスに戻ります。
- 12) [マネージャからのエクスプレス通報の基本設定]ダイアログボックスで[OK]をクリックしてダイアログボッ
クスを閉じます。
- 13) アラートマネージャの[設定]メニューから[通報先リストの設定]を選びます。

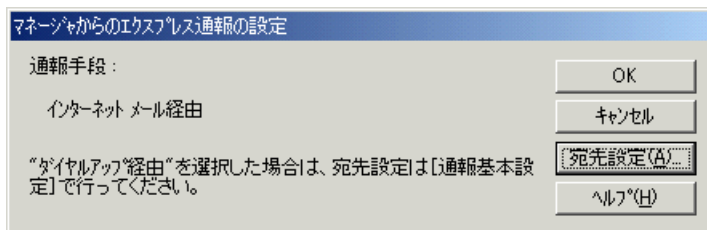
- 14) ID リストから[マネージャからのエクスプレス通報]を選んで、[修正...]をクリックします。



- 15) [ID 設定]ダイアログボックスが表示されたら、[宛先設定...]をクリックします。

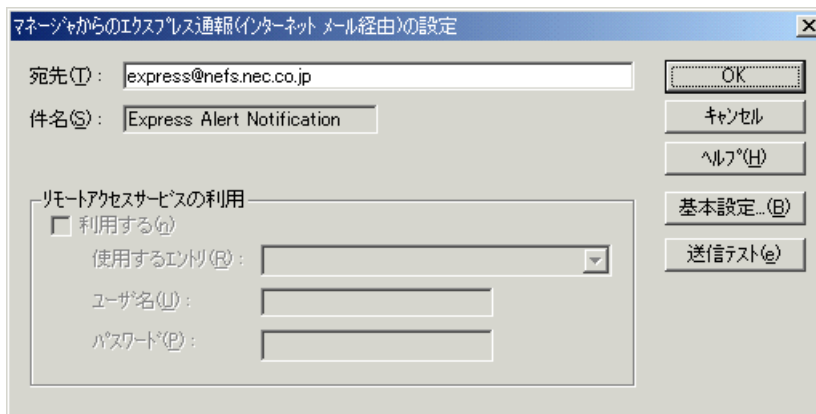


[マネージャからのエクスプレス通報の設定]ダイアログボックスが表示されます。

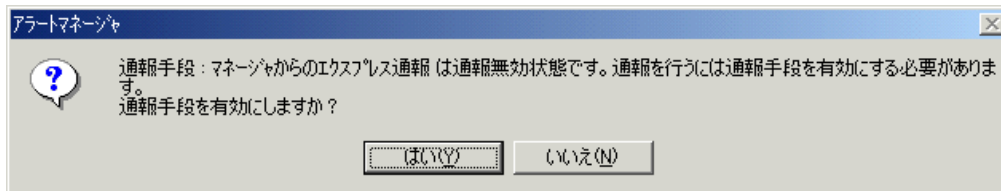


- 16) [宛先設定...]をクリックします。

[マネージャからのエクスプレス通報(インターネットメール経由)の設定]ダイアログボックスが表示されます。



- 17) 宛先を確認します。
宛先は通報開局 FD(または開局 CD)に設定されているメールアドレスを表示していますので、問題がない限り設定を変えないでください。
- 18) [送信テスト]をクリックしてメールの送信確認をします。
- 19) [OK]をクリックして、[マネージャからのエクスプレス通報(インターネットメール経由)の設定]ダイアログボックスを閉じます。
- 20) [マネージャからのエクスプレス通報の設定]ダイアログボックスで[OK]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 21) [ID 設定]画面から[スケジュール...]ボタンをクリックして、通報リトライの設定、通報時間帯を設定します。
初期値は、5分間隔で72時間後までのリトライ、24時間通報可能になっています。
この値は推奨値です。問題がない限り設定を変えないでください。
設定を終えたら[OK]ボタンを押して[スケジュール]画面を閉じます。
- 22) 通報手段を有効にするかどうか確認のメッセージボックスが表示されたら、[はい]をクリックします。



[いいえ]をクリックした場合は、アラートマネージャの[通報基本設定]を選び、[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[マネージャからのエクスプレス通報]の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)にしてください。

以上で、マネージャ経由エクスプレス通報のマネージャ側の設定は完了しました。
次にエージェントでマネージャ経由エクスプレス通報を設定してください。

5.2. エージェントの設定

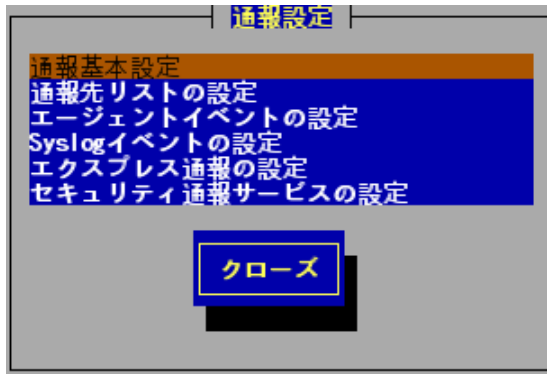
マネージャを経由してエクスプレス通報するときのエージェントでの設定手順について説明します。

- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。

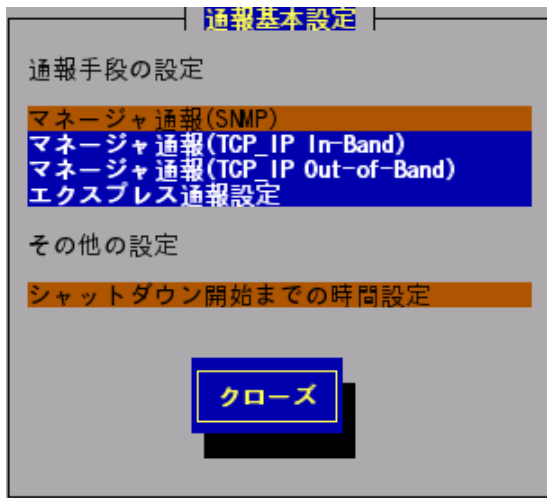
```
# cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
```

```
# ./ESMamsadm
```

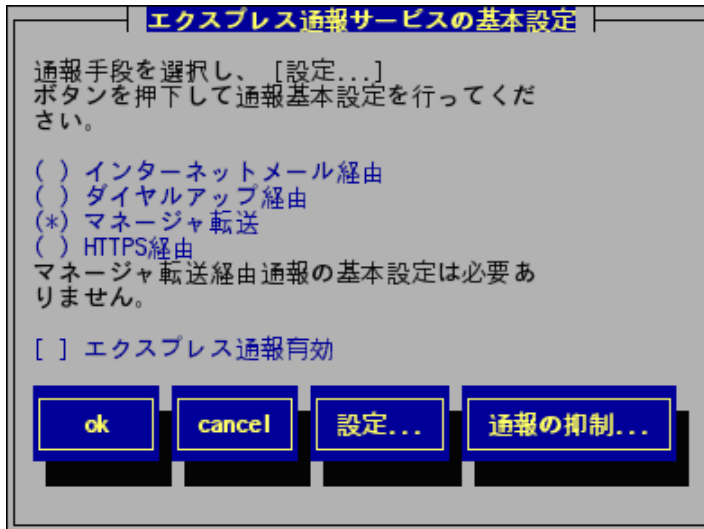
- 2) [通報設定]画面が表示されます。
[通報設定]画面から[通報基本設定]を選びます。



- 3) [通報設基本定]画面が表示されます。
[通報基本設定]画面から[エクスプレス通報設定]を選びます。



- 4) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面が表示されます。

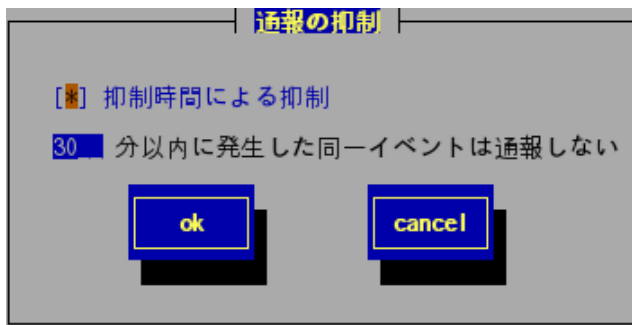


ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2 より前のバージョンでは、「ダイヤルアップ経由」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.22-1 より前のバージョンでは、「HTTPS 経由」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.30-1 より前のバージョンでは、[通報の抑制...]ボタンは表示されません。

エクスプレス通報有効

エクスプレス通報を有効にするか無効にするかを指定します。(スペースキーで設定)
チェックがあるときは有効になり、チェックが無いときは無効になります。

- 5) [マネージャ転送]を選び、[ok]ボタンを押します。[通報基本設定]画面に戻ります。
- 6) 通報の抑制を設定するときは、[通報の抑制...]ボタンを押してください。
通報の抑制を設定しないときは、手順 8)へ進んでください。



抑制時間による抑制

指定された時間内に発生した同一イベントを通報したくない場合、本項目をチェックしてください。
(スペースキーで設定)
規定値は本項目にチェックが入っています。

抑制時間

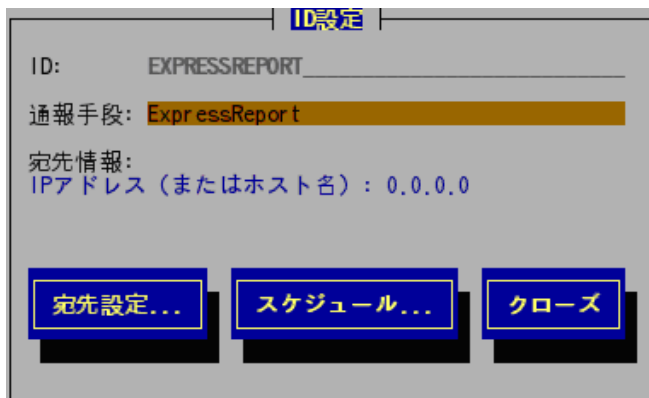
通報を抑制する時間を 0~1440(分)の範囲で指定します。
規定値は 60(分)となっています。
また、0(分)の場合は通報の抑制を実施しません。

- 7) [通報の抑制]画面で[ok]ボタンを押して、[エクスプレス通報サービスの基本設定]画面に戻ります。
- 8) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面で[ok]ボタンを押して、[通報基本設定]画面に戻ります。

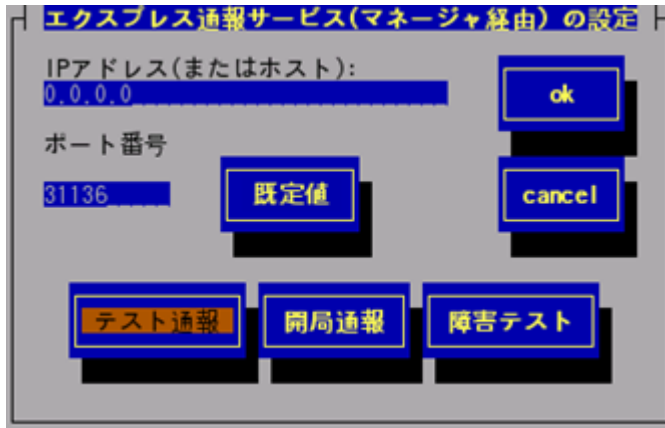
- 9) [通報基本設定]画面で[クローズ]ボタンを押して[通報設定]画面に戻ります。
- 10) [通報設定]画面から[通報先リストの設定]を選びます。
- 11) [通報先リストの設定]画面が表示されます。
[EXPRESSREPORT]を選び、[修正...]ボタンを押します。



- 12) [ID 設定]画面が表示されます。[宛先設定...]ボタンを押します。



- 13) [エクスプレス通報サービス(マネージャ経由)の設定]画面が表示されます。
マネージャの宛先を設定してください。



ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2 より前のバージョンでは、[既定値]ボタンは[Default]ボタンと表示します。

IP アドレス(またはホスト)

マネージャの IP アドレス(またはホスト名)を設定します。
マネージャの IP アドレス(またはホスト名)は必ず指定してください。
たとえば、manager.foo.co.jp または 192.168.0.100 のように入力します。
ホスト名を指定したときは、名前解決のために/etc/hosts への定義してください。
例) 192.168.0.100 manager.foo.co.jp

ポート番号

マネージャとソケット間通信で使用するポート番号を指定します。既定値は 31136 です。
既定値に問題がない限り設定を変えないでください。
変えるときはマネージャでも同一のポート番号を指定してください。
[既定値]ボタンを押すと、既定値(31136)に戻せます。

[テスト通報]ボタン

テスト通報を行う場合、このボタンを押します。テスト結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[開局通報]ボタン

エクスプレス通報の開局通報を行う場合、このボタンを押します。通報結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[障害テスト]ボタン

障害テスト通報を行う場合、このボタンを押します。

- 14) [テスト通報]ボタンを押してテスト通報を確認します。
- 15) テスト通報の結果送付先を設定して、[ok]ボタンを押します。
- 16) 確認メッセージが表示されますので、[ok]ボタンを押すとテスト通報します。
テスト通報完了後は、指定した結果送付先へのメールの到着をお待ちください。
テスト通報結果を確認した後で、開局通報してください。
マネージャでダイヤルアップ経由が選択されている場合は、テスト結果は送付されません。

- 17) [開局通報]ボタンを押して開局通報を確認します。
([開局通報]ボタンは、テスト通報完了後に押せるようになります。)
開局通報が完了した時点でエクスプレス通報サービスが開始されます。
 - 18) [ok]ボタンを押して[エクスプレス通報サービス(マネージャ経由)の設定]画面を閉じます。
 - 19) [ID 設定]画面から[スケジュール...]ボタンを押して、通報リトライと通報時間帯を設定します。
初期値は、5分間隔で72時間後までのリトライ、24時間通報可能になっています。
この値は推奨値です。特に問題がなければ変えないでください。
設定を終えたら[OK]ボタンを押して[スケジュール...]画面を閉じます。
 - 20) [クローズ]ボタンを押して[ID 設定]画面を閉じます。
 - 21) [クローズ]ボタンを押して[通報先リストの設定]画面を閉じます。
 - 22) [クローズ]ボタンを押して[通報設定]画面を閉じます。
- 以上で、マネージャ経由エクスプレス通報ができるようになります。

6. HTTPS経由の設定

HTTPS プロトコルを利用して、エクスプレス通報サービスを開始するための設定手順について説明します。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.22-1 以降のバージョンから、本機能をサポートしています。

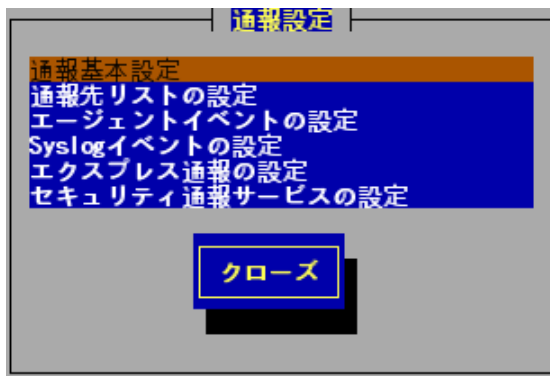
6.1. 開局手順

エクスプレス通報サービスを有効にするためには、以下の手順に従って、HTTPS 経由を設定してください。

- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。

```
# cd /opt/nec/esmpro_sa/bin  
# ./ESMamsadm
```

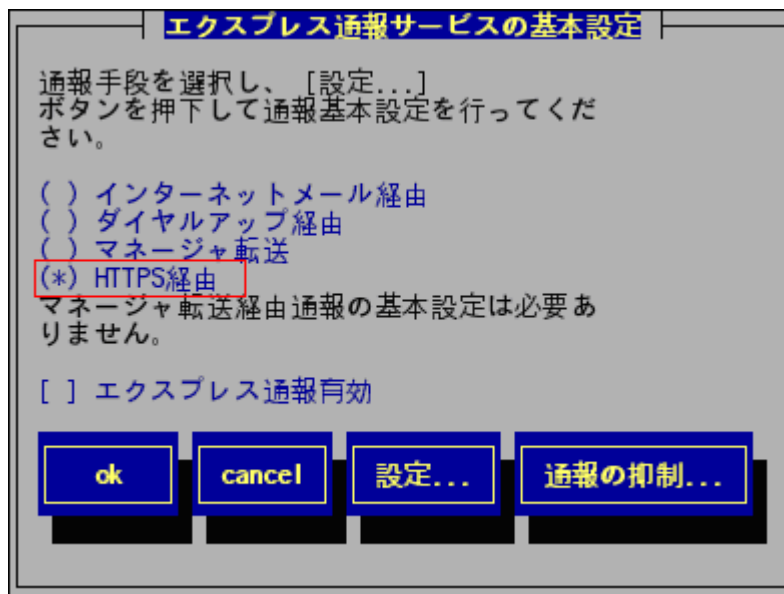
- 2) [通報設定]画面が表示されます。
[通報設定]画面から[通報基本設定]を選びます。



- 3) [通報基本設定]画面が表示されます。
[通報基本設定]画面から[エクスプレス通報設定]を選びます。



- 4) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面が表示されます。
[HTTPS 経由]を選び、[設定...]ボタンを押します。



ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2 より前のバージョンでは、「ダイヤルアップ経由」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.3.9-5 より前のバージョンでは、「マネージャ転送」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.22-1 より前のバージョンでは、「HTTPS 経由」の項目は表示されません。
ESMPRO/ServerAgent Ver.4.4.30-1 より前のバージョンでは、「通報の抑制...」ボタンは表示されません。

エクスプレス通報有効

エクスプレス通報を有効にするか無効にするかを指定します。(スペースキーで設定)
チェックがあるときは有効になり、チェックが無いときは無効になります。

- 5) [エクスプレス通報(HTTPS 経由)の基本設定]画面が表示されます。



[宛先の読み込み]ボタン

既定の通報先を変更したい場合、宛先定義ファイルを作成/更新の上、本ボタンを押してください。
宛先定義ファイルの詳細については、後述の「6.2.1 宛先定義ファイル」に記載します。
開局通報済みの場合に本ボタンを押した場合は、未開局状態となりますので、

改めて開局通報してください。



宛先 URL は通報開局 FD(または、開局 CD)内のファイルに埋め込まれており、通常は宛先の読み込みは必要ありません。

[プロキシの設定]ボタン

プロキシサーバを経由して通報したい場合、本ボタンを押して、表示される[プロキシサーバの設定]画面から、プロキシサーバの設定をしてください。

指定したプロキシサーバを使用する

プロキシサーバを使用する場合、チェックを入れます。(スペースキーで設定)

アドレス

プロキシサーバの IP アドレス(またはホスト名)を 256 文字以内で設定します。

たとえば、proxy.foo.co.jp または 192.168.0.100 のように入力します。

ホスト名を指定したときは、名前解決するために/etc/hosts への定義してください。

例) 192.168.0.100 proxy.foo.co.jp

ポート

プロキシサーバと通信で使用するポート番号を[1-65535]の範囲で指定します。

[テスト通報]ボタン

各通報先にテスト通報を行う場合、このボタンを押します。テスト結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[開局通報]ボタン

エクスプレス通報の開局通報を行う場合、このボタンを押します。通報結果はメッセージにて確認できます。エラー時はメッセージ内容にしたがって設定をやり直してください。

[障害テスト]ボタン

障害テスト通報を行う場合、このボタンを押します。

- 6) 一次通報先の[テスト通報]ボタンを押してテスト通報を確認します。



テスト通報/開局通報は、以下の順番に実行します。

1. 一次通報先のテスト通報
2. 二次通報先のテスト通報(二次通報先が設定されている場合)
3. 開局通報

- 7) テスト通報の結果送付先を設定して、[ok]ボタンを押します。
- 8) 確認メッセージが表示されますので、[ok]ボタンを押すとテスト通報します。
テスト通報完了後は、指定した結果送付先へのメールの到着をお待ちください。
テスト通報結果を確認した後で、開局通報してください。
- 9) 二次通報先が設定されている場合、二次通報先の[テスト通報]ボタンを押してテスト通報を確認します。
- 10) テスト通報の結果送付先を設定して、[ok]ボタンを押します。
- 11) 確認メッセージが表示されますので、[ok]ボタンを押すとテスト通報します。
テスト通報完了後は、指定した結果送付先へのメールの到着をお待ちください。
テスト通報結果を確認した後で、開局通報してください。
- 12) [開局通報]ボタンを押して開局通報を確認します。
([開局通報]ボタンは、テスト通報完了後に押せるようになります)
開局通報が完了した時点でエクスプレス通報サービスが開始されます。

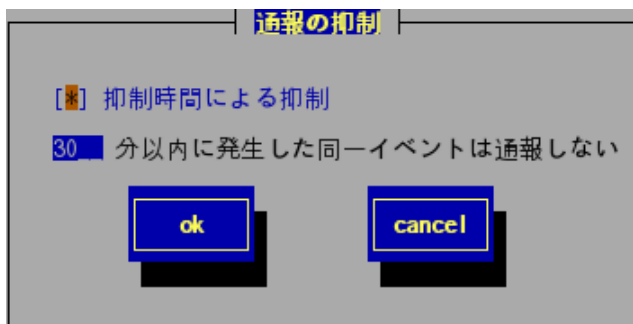


開局通報時にハートビート通報を送信します。ハートビート通報に失敗した場合、syslog に「Express (HTTPS) HeartBeat」を含むメッセージが出力されますので、以下のコマンドを実行して確認してください。

```
# cat /var/log/messages | grep HTTPS
```

メッセージが出力されていた場合は、メッセージを元に設定を確認してください。

- 13) [ok]ボタンを押して[エクスプレス通報(HTTPS 経由)の基本設定]画面を閉じます。
- 14) 通報の抑制を設定するときは、[通報の抑制...]ボタンを押してください。
通報の抑制を設定しないときは、手順 16)へ進んでください。



抑制時間による抑制

指定された時間内に発生した同一イベントを通報したくない場合、本項目をチェックしてください。
(スペースキーで設定)
規定値は本項目にチェックが入っています。

抑制時間

通報を抑制する時間を 0~1440(分)の範囲で指定します。
規定値は 60(分)となっています。
また、0(分)の場合は通報の抑制を実施しません。

- 15) [通報の抑制]画面で[ok]ボタンを押して、[エクスプレス通報サービスの基本設定]画面に戻ります。
 - 16) [エクスプレス通報サービスの基本設定]画面で[ok]ボタンを押して、[通報基本設定]画面に戻ります。
 - 17) [通報基本設定]画面で[クローズ]ボタンを押して[通報設定]画面に戻ります。
 - 18) [通報設定]画面から[通報先リストの設定]を選択します。
[通報先リストの設定]画面が表示されます。
 - 19) [EXPRESSREPORT]を選択し、[修正...]ボタンを押します。
 - 20) [ID 設定]画面から[スケジュール...]ボタンを押して、通報リトライと通報時間帯を設定します。
初期値は、5分間隔で72時間後までのリトライ、24時間通報可能になっています。
この値は推奨値です。特に問題がなければ変えないでください。
設定を終えたら[OK]ボタンを押して[スケジュール...]画面を閉じます。
 - 21) [クローズ]ボタンを押して[ID 設定]画面を閉じます。
 - 22) [クローズ]ボタンを押して[通報先リストの設定]画面を閉じます。
 - 23) [クローズ]ボタンを押して[通報設定]画面を閉じます。
- 以上で、HTTPS 経由エクスプレス通報ができるようになります。

6.2. HTTPS経由の定義ファイルの設定

エクスプレス通報サービス(HTTPS)をご利用の場合に使用する、各定義ファイルについて説明します。

6.2.1. 宛先定義ファイル(AMHTPADR.INF)

HTTPS 通報の通報先を定義するファイルです。

「宛先の読み込み」を実行する前に、下記のディレクトリに格納する必要があります。

/opt/nec/esmpro_sa/data/https/AMHTPADR.INF

設定内容は以下の通りです。

[URL1] ...セクション名です。必ず記載してください。

URL= ...一時通報先を 500 文字以内の英数字、記号で記載してください。
必ず記載してください。

[URL2] ...セクション名です。設定しない場合、記載は必要ありません。

URL= ...二次通報先を記載してください。
設定しない場合、記載は必要ありません。

以下は設定の例です。

```
[URL1]
URL=https://13.13.13.133/Scripts/trsRecvAlert.cgi
[URL2]
URL=https://13.13.13.155:8443/cgi-bin/trsRecvAlert.cgi
```

「URL=」に続く箇所に、通報先を 500 文字以内の英数字、記号で記載してください。

6.2.2. ログ収集定義ファイル(AMHTPLOG.INF)

エクスプレス通報(HTTPS)サービスでは、障害通報と同時にログファイルを添付して送信する機能があります。障害通報と同時に送信するログ情報は、ログ収集定義ファイルにより設定が可能です。

ログ収集定義ファイルは下記に格納されています。

```
/opt/nec/esmpro_sa/data/https/AMHTPLOG.INF
```

以下は既定値の設定です。

既定値では、障害情報採取ツール(collectsa.sh)を指定しています。

```
[Configuration]
TimeOut=1800
MaxSize=0

[DefaultTools]
Command="/opt/nec/esmpro_sa/tools/collectsa.sh"
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/collectsa.tgz"
Directory="/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog"

[NoneTrouble]
SourceName01=*
EventID01=*
```

以下に設定項目の詳細を記載します。

[Configuration]

- TimeOut=xxxx ※タイムアウト時間(秒)を指定。0指定時は、タイムアウトしない。
- MaxSize=0 ※添付可能な最大ログサイズ(KB)を指定。0指定時は、最大サイズの最大値。

[DefaultTools]

- Command="/xxx/xxx/xxx.sh" ※コマンド未定義のイベントに使用するコマンド。
- LogFile="/xxx/xxx/xxx.log" ※採取ログファイル名またはディレクトリ名。
- Directory="/xxx/xxx" ※実行ディレクトリ。

[NoneTrouble]

- SourceName01=xxxxxxx ※コマンド実行対象外のソース名、イベントIDを指定。
- EventID01=xxxxx,xxxxxx,xxxxx
- SourceName02=xxxxxxx
- EventID02=xxxxx,xxxxxx,xxxxx

[Tool001]

※コマンドは001~999まで登録可能。

- SourceName01=xxxxxxx ※コマンド実行対象のソース名、イベントIDを指定。
- EventID01=xxxxx,xxxxxx,xxxxx
- Command="/xxx/xxx/xxx.sh"
- LogFile="/xxx/xxx/xxx.log"
- Directory="/xxx/xxx"

[Tool002]

- SourceName01=xxxxxxx
- EventID01=xxxxx,xxxxxx,xxxxx
- Command="/xxx/xxx/xxx.sh"
- LogFile="/xxx/xxx/xxx.log"
- Directory="/xxx/xxx"

1) [Configuration]セクションには採取のパラメータを指定します。

- Timeout に、障害情報のログ採取を中断する秒数を、半角数字 0~4294967295 の間で指定します。
0 を指定したときは、中断しません。
- MaxSize に、障害情報のログ採取の最大サイズ(KB 単位)を、半角数字 0~2097152 の間で指定します。
0 を指定したときは、最大サイズの最大値(2097152KB)となります。

2) [DefaultTools]セクションには個別の採取ログコマンドが指定されていないときに採取するログ情報を指定します。

- Command にはログ採取するコマンドの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 258byte までです。
- LogFile には採取するログの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 259byte までです。
ディレクトリを指定したときは、ディレクトリ配下のファイル(サブディレクトリも含む)をすべて採取します。



「/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/」は ESMPRO/ServerAgent の作業ディレクトリです。

そのため以下の指定はできません。

```
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/"
```

```
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/"
```

```
LogFile="/opt/nec/"
```

```
LogFile="/opt/"
```

```
LogFile=""
```

- Directory にはログ採取するコマンドを実行するパスの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 259byte までです。

3) [NoneTrouble]セクションには、ログを採取しないイベントを、SourceNameXX、EventIDXX(XX は 01~99 の連番のいずれかの番号)で指定します。

- SourceNameXX には対象のソース名を指定します。
"" を指定した場合はすべてのソース名となります。
- EventIDXX には対象のイベント ID を指定します。
イベント ID にはイベント ID を 0x で始まる 16 進数表記で 32 ビットすべてを指定します。
"," で区切ることで、最大 512 個のイベント ID を指定できます。
"" を指定した場合は、すべてのイベント ID となります。

4) [ToolYYY]セクション(YYY は 001~999 の連番の番号のいずれかの番号)には個別の採取ログコマンド

- Command にはログ採取するコマンドの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 258byte までです。
- LogFile には採取するログの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 259byte までです。
ディレクトリを指定したときは、ディレクトリ配下のファイル(サブディレクトリも含む)をすべて採取します。



「/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/」は ESMPRO/ServerAgent の作業ディレクトリです。
そのため以下の指定はできません。

```
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/"
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/"
LogFile="/opt/nec/"
LogFile="/opt/"
LogFile=""
```

- Directory にはログ採取するコマンドを実行するパスの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 259byte までです。
- SourceNameXX、EventIDXX(XX は 01~99 の連番のいずれかの番号)で対象のイベントを指定します。
SourceNameXX には対象のソース名を指定します。
"*"を指定した場合はすべてのソース名となります。
- EventIDXX には対象のイベント ID を指定します。
イベント ID にはイベント ID を 0x で始まる 16 進数表記で 32 ビットすべてを指定します。
","で区切ることで、最大 512 個のイベント ID を指定できます。
"*"を指定した場合は、すべてのイベント ID となります。

<補足事項>

※複数の[ToolYYY]に一致するイベントに関してはすべての採取コマンドが実行されます。

この場合の Timeout は、すべてのコマンドの実行が完了するまでの時間に関して適用されます。
個々の採取コマンド毎には適用されません。

※[DefaultTools]セクションにコマンドが記述されていないときは、[ToolYYY]で定義されたイベントのみ
ログ収集を実行します。

※[NoneTrouble]セクションで[*]を定義したときでも、[ToolYYY]セクションに記述のあるイベントに関し
ては[ToolYYY]セクションのログを採取します。

以下は各項目の設定例です。

```
[Configuration]
TimeOut = 600
MaxSize = 0

[DefaultTools]
Command ="/opt/nec/esmpro_sa/tools/collectsa.sh "
```

LogFile=" /opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/collectsa.tgz "

Directory=" /opt/nec/esmpro_sa/gatherlog"

[NoneTrouble]

SourceName01=AlertManagerMainService

EventID01=0x20000001

[Tool001]

SourceName01=ESMCommonService

EventID01=0x800003E8,0x400003E9

SourceName02=ESMLANService

EventID02=0x8000012D

Command ="/opt/nec/esmpro_sa/tools/collectsa1.sh "

LogFile=" /opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/collectsa.tgz "

Directory=" /opt/nec/esmpro_sa/gatherlog"

6.2.3. 構成情報定義ファイル(AMHTPHBI.INF)

エクスプレス通報(HTTPS)サービスでは、定期的(毎月)に構成情報を添付して送信する構成情報通報機能があります。送付情報は、構成情報定義ファイルに従って採取されます。

構成情報定義ファイルは下記に格納されています。

/opt/nec/esmpro_sa/data/https/AMHTPHBI.INF

以下は既定値の設定です。

既定値では、障害情報採取ツール(collectsa.sh)を指定しています。

```
[Configuration]
TimeOut=1800
MaxSize=0

[Tools]
Command="/opt/nec/esmpro_sa/tools/collectsa.sh"
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/collectsa.tgz"
Directory="/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog"

[Schedule]
ScheduleType=every month
ScheduleDay=1
ScheduleTime=00:00
```

以下に設定項目の詳細を記載します。

[Configuration]

- ・ TimeOut=xxxx ※タイムアウト時間(秒)を指定。
- ・ MaxSize=0 ※添付可能な最大ログサイズ(KB)を指定。0 指定時は、最大サイズの最大値。

[Tools]

- ・ Command="/xxx/xxx/xxx.sh" ※設定が無いときはツールを実行しません。
- ・ LogFile="/xxx/xxx/xxx.log"
- ・ Directory="/xxx/xxx"

[Schedule]

- ・ ScheduleType=every month
- ・ ScheduleDay=xx
- ・ ScheduleTime=xx:xx

1) [Configuration]セクションには採取のパラメータを指定します。

- ・ Timeout に、障害情報のログ採取を中断する秒数を、半角数字 0~4294967295 の間で指定します。0 を指定した場合、中断しません。
- ・ MaxSize には、障害情報のログ採取の最大サイズ(KB 単位)を、半角数字 0~2097152 の間で指定しま

す。0 を指定したときは、最大サイズの最大値(2097152KB)となります。

2) [Tools]セクションには、採取するログ情報を指定します。

- Command には、ログ採取するコマンドの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 258byte までです。
- LogFile には、採取するログの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 259byte までです。
ディレクトリを指定したときは、ディレクトリ配下のファイル(サブディレクトリも含む)をすべて採取します。



「/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/」は ESMPRO/ServerAgent の作業ディレクトリです。

そのため以下の指定はできません。

```
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/"
```

```
LogFile="/opt/nec/esmpro_sa/"
```

```
LogFile="/opt/nec/"
```

```
LogFile="/opt/"
```

```
LogFile=""
```

- Directory には、ログ採取するコマンドを実行するパスの絶対パスを指定します。
絶対パスの文字列長は 259byte までです。
- 3) Linux 版エクスプレス通報サービス(HTTPS)は、定期的(毎月)に構成情報通報機能が動作しますので、[Schedule]セクションの設定内容は適用されません。

6.3. HTTPS経由の注意事項

- 1) エクスプレス通報サービス(HTTPS)では、送信用の圧縮したファイルを以下のディレクトリに格納します。
/opt/nec/esmpro_sa/gatherlog/

送信に失敗して、通報リトライ期限(規定値 72 時間)を超えたときは、上記ディレクトリにファイルが残りますので、削除する場合は root 権限のあるユーザでログインして以下のコマンドを実行してください。

```
# cd /opt/nec/esmpro_sa/gatherlog
# rm -rf *.DAT
# rm -rf *.zip
```

- 2) ログファイルは zip 圧縮された後、xor 暗号化して DAT にリネームしています。ファイルを確認するときは復号化してから zip 解凍してください。
- 3) ログファイルの命名規約は以下の通りです。

{\$通報時間:YYYYMMDDhhmmss}{\$EventID:XXXXXXXX}{\$LogType}{\$SourceName}{EXT}

(例 : 20100312142159C0001234SystemESMCpuPerf.DAT)

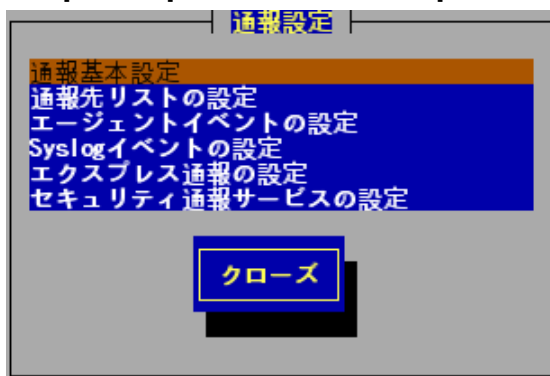
{\$通報時間:YYYYMMDDhhmmss}	障害発生時間 (例 : 20100312142159)
{\$EventID:XXXXXXXX}	EventIDの16進数表記 (例 : C0001234)
{\$LogType}	LogTypeの文字列 (例 : System、Application)
{\$SourceName}	SourceNameの文字列 (例 : ESMCpuPerf)
{EXT}	拡張子 (例 : .DAT、.zip)

7. エクスプレス通報サービスの各種設定

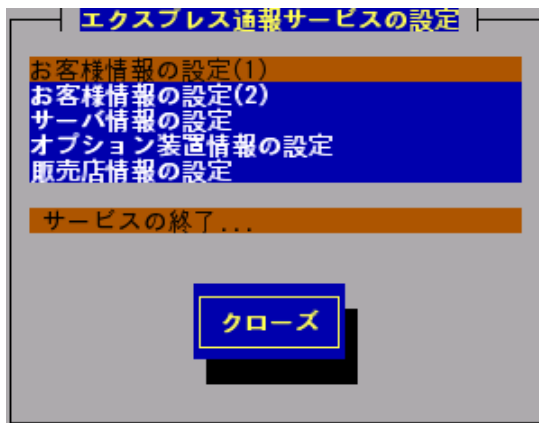
インストール後に通報開局 FD(または、開局 CD)の内容確認、および、設定を修正するときは、以下の設定手順に従い、設定してください。

- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。
cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
./ESMamsadm

- 2) [通報設定]画面が表示されます。
[通報設定]画面から[エクスプレス通報の設定]を選びます。



- 3) [エクスプレス通報サービスの設定]画面が表示されます。



お客様情報の設定(1)、お客様情報の設定(2)

お客様情報の確認および修正ができます。

サーバ情報の設定

サーバ情報の確認および修正ができます。

オプション装置情報の設定

システムに増設したオプション装置情報の確認および修正ができます。

販売店情報の設定

販売店情報の確認および修正ができます。

[サービスの終了...]ボタン

エクスプレス通報サービスを終了します。

[クローズ]ボタン

[エクスプレス通報サービスの設定]画面を閉じます。

7.1. お客様情報の確認および修正

- 1) [エクスプレス通報サービスの設定]画面から[お客様情報の設定(1)]を選びます。
[お客様情報の設定(1)]画面が表示されます。
各設定項目を入力後、[ok]ボタンを押してください。

お客様情報の設定(1)

説明:
 個人 () 法人

お客様名称(カナ): ニチデンタロウ

お客様名称(漢字): 日電太郎

部署名: _____

担当者名(カナ): _____

担当者名(漢字): _____

ユーザシステムコード: 008EWA0002

ok cancel

お客様属性 [必須入力]

“個人”または“法人”のいずれかを選んでください。(スペースキーで設定)

お客様名称(カナ) [必須入力]

お客様名称(姓および名)または法人名を全角カナ 25 文字以内で入力してください。

お客様名称(漢字) [必須入力]

お客様名称(姓および名)または法人名を漢字 40 文字以内で入力してください。

部署名

お客様の部署名を漢字 30 文字以内で入力してください。

※本項目は、お客様属性にて“法人”が選ばれた場合のみ設定可能です。

担当者名(カナ)

担当者の名称(姓および名)を半角カナ 10 文字以内で入力してください。

氏名の間には 1 文字の空白を挿入してください。

※本項目は、お客様属性にて“法人”が選ばれた場合のみ設定可能です。

担当者名(漢字)

担当者の名称(姓および名)を漢字 15 文字以内で入力してください。

氏名の間には 1 文字の空白を挿入してください。

※本項目は、お客様属性にて“法人”が選ばれた場合のみ設定可能です。

ユーザシステムコード

お客様のユーザシステムコードが表示されます。

[ok]ボタン

変更内容を保存して、[お客様情報の設定(1)]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

[cancel]ボタン

変更内容を破棄して、[お客様情報の設定(1)]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

- 2) [エクスプレス通報サービスの設定]画面から[お客様情報の設定(2)]を選びます。
[お客様情報の設定(2)]画面が表示されます。
各設定項目を入力後、[ok]ボタンを押してください。

お客様郵便番号: 183
住所(カナ): トウキョウトフチュウシニッシンチョウ
住所(漢字): 東京都府中市日新町
住所(詳細): 1-10
お客様電話番号: 0123-45-6789
お客様メールアドレス: aaa@bbb.co.jp

ok cancel

お客様郵便番号 [必須入力]

お客様の郵便番号を半角数字 7 文字以内で入力してください。

住所(カナ) [必須入力]

お客様の住所を全角カナ 25 文字以内で入力してください。

住所(漢字) [必須入力]

お客様の住所を漢字 40 文字以内で入力してください。

住所(詳細)

お客様の住所の詳細(ビル名、フロア区分等)を漢字 20 文字以内で入力してください。

お客様電話番号 [必須入力]

お客様の電話番号を“(市外局番)局番一番号”の形式で、半角数字 30 文字以内で入力してください。

(例) (0123)45-6789

お客様メールアドレス [必須入力]

お客様の電子メールアドレスを半角英数字 80 文字以内で入力してください。

[ok]ボタン

変更内容を保存して、[お客様情報の設定(2)]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

[cancel]ボタン

変更内容を破棄して、[お客様情報の設定(2)]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

7.2. サーバ情報の確認および修正

- 1) [エクスプレス通報サービスの設定]画面から[サーバ情報の設定]を選びます。
[サーバ情報の設定]画面が表示されます。
各設定項目を入力後、[ok]ボタンを押してください。

項目	値
サーバ名称	CNES-BS2ESM133S
装置コード	NB500-252 Express5800/120Ld
製造番号	0123456789
保証書番号	9999999999
OS名	Red Hat Enterprise Linux ES 3
詳細バージョン	Update 2
コメント	

ESMPRO/ServerAgent Ver.4.1.10-3 より前のバージョンでは、「コメント」の項目は表示されません。

サーバ名称 [必須入力]

お客様が付けたサーバ名称(コンピュータ名)を半角英数字 35 文字以内で入力してください。

装置コード [必須入力]

装置コードを本体装置裏の名盤を参照して、半角英数字 35 文字以内で入力してください。

製造番号 [必須入力]

本体装置の製造番号(SERIAL NO.)を半角英数字 16 文字以内で入力してください。

保証書番号 [必須入力]

本体装置の保証書番号を半角英数字 16 文字以内で入力してください。

OS名 [必須入力]

OS名を表示します。一覧から選択及び入力はできません。

※本項目は、通報開局 FD(または、開局 CD)に格納されている情報のみです。

契約内容と異なるときは、購入された販売店にお問い合わせください。

詳細バージョン

OSの詳細番号を半角英数字 32 文字以内で入力してください。

コメント

付加情報が必要な場合はここに 256 文字以内で入力してください。

[ok]ボタン

変更内容を保存して、[サーバ情報の設定]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

[cancel]ボタン

変更内容を破棄して、[サーバ情報の設定]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

7.3. オプション装置情報の確認および修正

- 1) [エクスプレス通報サービスの設定]画面から[オプション装置情報の設定]を選びます。
[オプション装置情報の設定]画面が表示されます。
設定完了後、[ok]ボタンを押してください。



オプションリスト

現在設定されているオプション装置情報の一覧が表示されます。

[追加]ボタン

[オプション装置の追加]画面が表示されます。

[削除]ボタン

オプションリスト内で選ばれた装置を削除します。

[ok]ボタン

変更内容を保存して、[オプション装置情報の設定]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

[cancel]ボタン

変更内容を破棄して、[オプション装置情報の設定]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

<<[オプション装置の追加]画面>>



装置種別

装置種別(増設 CPU、増設 MEM 等)を選択すると装置一覧に装置名／装置コードが表示されます。
該当する装置種別が存在しない場合は(その他)を選んでください。
(その他)を選択すると、[オプション装置の追加(手入力)]画面が表示されます

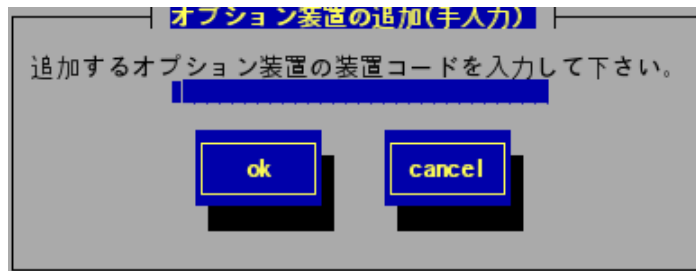
[ok]ボタン

変更内容を保存して、[オプション装置の追加]画面を閉じ、[オプション装置情報の設定]画面に戻ります。

[cancel]ボタン

変更内容を破棄して、[オプション装置の追加]画面を閉じ、[オプション装置情報の設定]画面に戻ります。

<<[オプション装置の追加(手入力)]画面>>



オプション装置の装置コード(N 型番)を半角英数字 15 文字以内で入力後、[ok]ボタンを押すとオプションリストに装置コードが追加されます。

(例) N1234-56

7.4. 販売店情報の確認および修正

- 1) [エクスプレス通報サービスの設定]画面から[販売店情報の設定]を選びます。
[販売店情報の設定]画面が表示されます。
各設定項目を入力後、[ok]ボタンを押してください。



販売店名 [必須入力]

販売店の名称を一覧から選んでください。

担当営業所属

担当営業の所属を漢字 30 文字以内で入力してください。

担当営業氏名

担当営業の氏名を漢字 20 文字以内で入力してください。

担当営業電話番号

担当営業の電話番号を“(市外局番)局番一番号”の形式で、半角数字 30 文字以内で入力してください。
(例) (0123)45-6789 (内線番号 3456 の場合の例) (0123)45-6789(3456)

担当 SE 所属

担当 SE 拠点の名称および所属を漢字 30 文字以内で入力してください。

担当 SE 氏名

担当 SE の氏名を漢字 20 文字以内で入力してください。

担当 SE 電話番号

担当 SE の電話番号を“(市外局番)局番一番号”の形式で、半角数字 30 文字以内で入力してください。
(例) (0123)45-6789 (内線番号 3456 の場合の例) (0123)45-6789(3456)

[ok]ボタン

変更内容を保存して、[販売店情報の設定]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

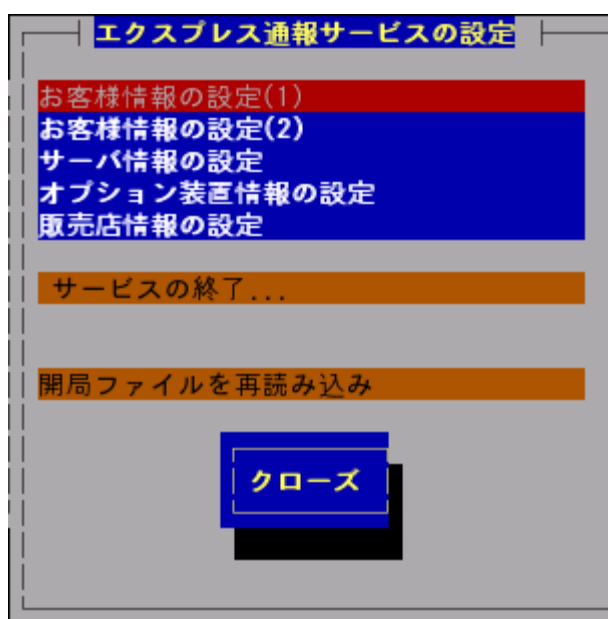
[cancel]ボタン

変更内容を破棄して、[販売店情報の設定]画面を閉じ、[エクスプレス通報サービスの設定]画面に戻ります。

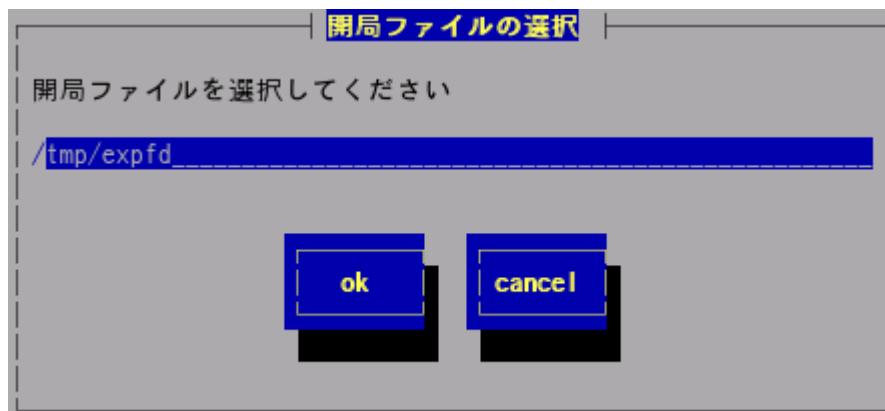
7.5. 開局ファイルの再読み込み

通常は本書 2 章「2 セットアップ方法」の手順に従って、再読み込みをする開局ファイルを指定してください。本機能は ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2.32-2 以降のバージョンからサポートしています。

- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。
cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
./ESMamsadm
- 2) [通報設定]画面から[エクスプレス通報の設定]を選択すると、[エクスプレス通報サービスの設定]画面が表示されます。
- 3) [エクスプレス通報サービスの設定]画面から[開局ファイルを再読み込み]を選びます。



- 4) [開局ファイルの選択]画面が表示されます。
マウント先のディレクトリを指定して、[ok]ボタンを押してください。
開局ファイルの再読み込み後は、「2 セットアップ方法」に従って、セットアップしてください。



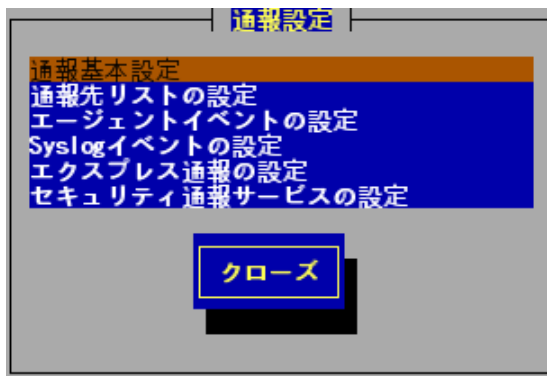
8. エクスプレス通報サービスの終了

エクスプレス通報サービスを開始すると、[サービスの終了]ボタンを押せるようになります。契約期間終了後にもかかわらず[サービスの終了]を実行していないとき、通報し続けるため課金上問題となります。そのため契約更新しないときは、速やかにサービスを終了させてください。

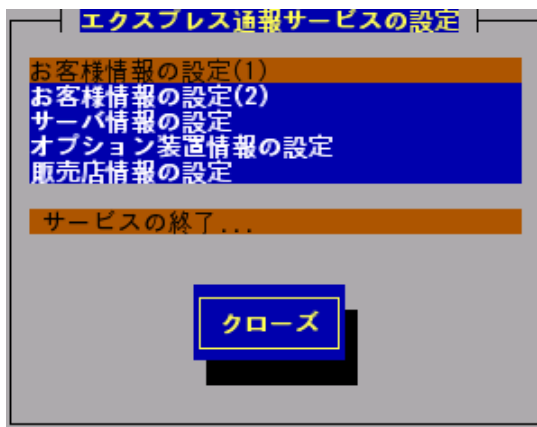
以下の設定手順に従い、終了処理をしてください。

- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。
cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
./ESMamsadm

- 2) [通報設定]画面が表示されます。
[通報設定]画面から[エクスプレス通報の設定]を選びます。



- 3) [エクスプレス通報サービスの設定]画面が表示されます。



- 4) [サービスの終了]を選び、画面の指示に従ってください。

これ以降、エクスプレス通報サービスに対して、アラート通知は行われなくなります。ESMPRO/ServerManager に対してのアラート通知は行います。

サービスを再開するためには、以下の設定手順に従い、処理を行ってください。

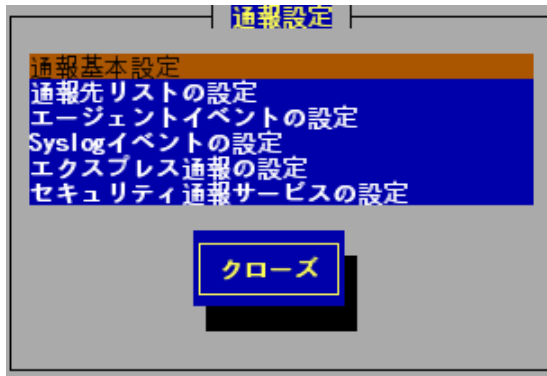
- 1) 以下のコマンドを実行して、コントロールパネル(/opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMamsadm)を起動します。

```
# cd /opt/nec/esmpro_sa/bin
```

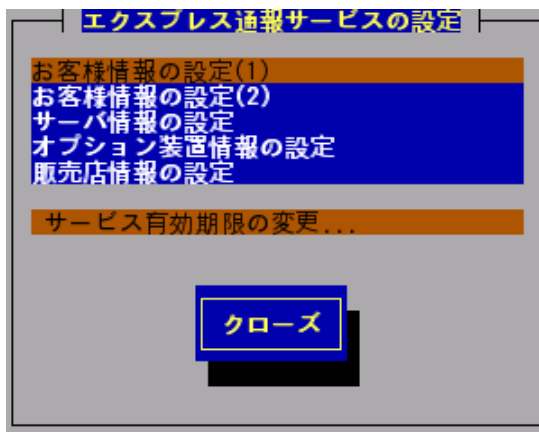
```
# ./ESMamsadm
```

- 2) [通報設定]画面が表示されます。

[通報設定]画面から[エクスプレス通報の設定]を選びます。



- 3) [エクスプレス通報サービスの設定]画面が表示されます。



- 4) [サービス有効期限の変更]を選び、期限延長キーを入力します。

期限延長キーは、契約を更新すると入手できます。